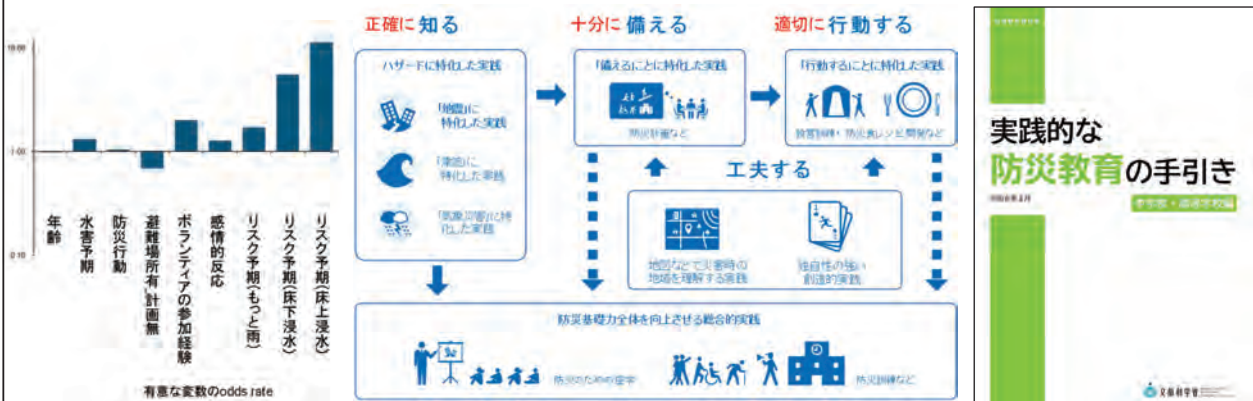


タイムラインを利用した行動変容アプローチ



兵庫県立大学 環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授

内閣府 防災教育チャレンジプラン実行委員会 委員長

木村 玲欧

2025年12月5日 河川情報シンポジウム

【背景】 防災は「一部の人たち」の対策でしかない

内閣府（2022）防災に関する世論調査(令和4年9月調査)

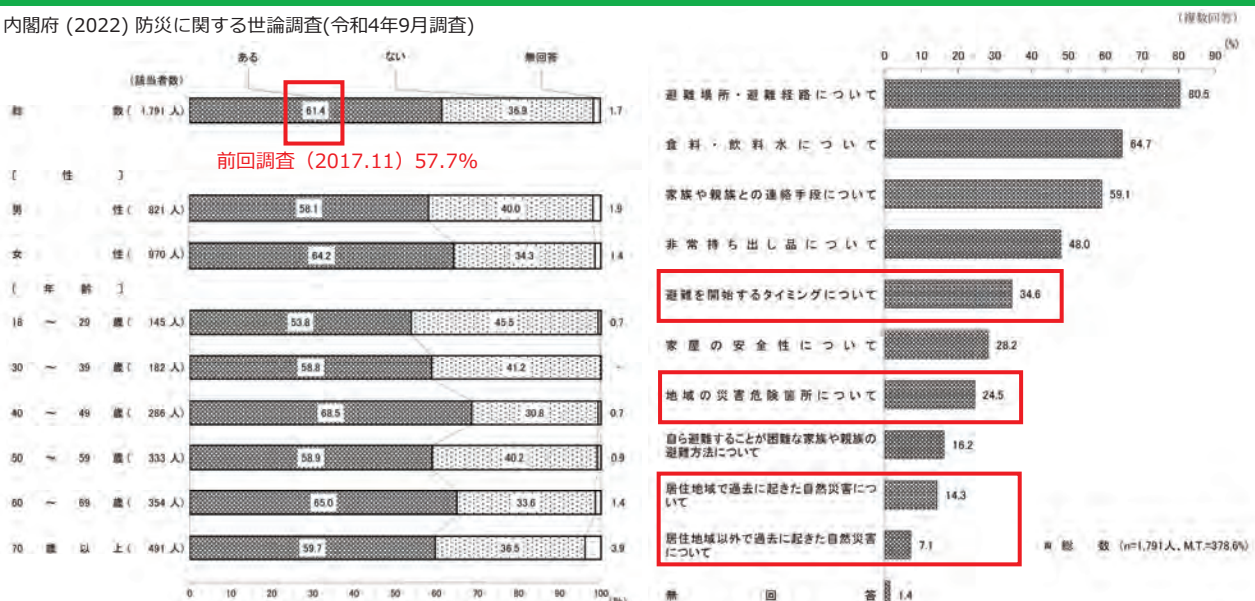


図 自然災害への対処などを家族や身近な人と話し
合ったことの有無

図 自然災害への対処法で家族や身近な人と話し合う内容として重要なこと

→自然災害が発生していても
人々の意識向上には限界がある

→災害事象そのものに関する知識を重要視していない

➡ 災害理解を進めて「防災の底上げ」を図っていく必要がある

(速報値) 内閣府 (2025) 防災に関する世論調査(令和7年8月調査)

1. 自然災害について

(1) 自然災害への対処などを家族や身近な人と話し合ったことの有無

問1. 我が国は、その位置、地形、地質、気象などの自然的条件から、地震、津波、火山噴火、台風や大雨などによる自然災害が発生しやすい国土となっています。あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、一度でもご家族や身近な人と、自然災害が起きた時に、どのように対処するかなどについて話し合ったことがありますか。(〇は1つ)

該当者数	ある	ない	無回答
人	%	%	%
1,551	64.0	34.6	1.4

<参考：令和4年9月調査>

該当者数	ある	ない	無回答
人	%	%	%
1,791	61.4	36.9	1.7



(2) 自然災害への対処法で家族や身近な人と話し合う内容として重要なこと

問3. あなたは、自然災害が起きた時の対処方法について、ご家族や身近な人と話し合う内容として、何が重要だと考えていますか。(〇はいくつでも)

該当者数	避難場所・避難経路について	食料・飲料水について	家族や親族との連絡手段について	非常持ち出し品について	避難を開始するタイミングについて	地域の災害危険箇所について	自らの避難することが困難な家族や親族の避難方法について	居住地域で過去に起きた自然災害について	居住地域以外で過去に起きた自然災害について	無回答	計(M.T.)
人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
1,551	78.5	67.1	53.6	50.4	30.9	29.3	24.4	17.0	14.9	10.4	379.6

<参考：令和4年9月調査>

該当者数	避難場所・避難経路について	食料・飲料水について	家族や親族との連絡手段について	非常持ち出し品について	避難を開始するタイミングについて	地域の災害危険箇所について	自らの避難することが困難な家族や親族の避難方法について	居住地域で過去に起きた自然災害について	居住地域以外で過去に起きた自然災害について	無回答	計(M.T.)
人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
1,791	80.5	64.7	59.1	48.0	34.6	28.2	24.5	16.2	14.3	7.1	378.6

【目的】 4つの研究・実践の融合によって防災力向上を図る

I 安全確保行動の阻害要因となる心理特性の総合的解明

研究1
災害時の避難に関する備えを促進させるための要因の解明

研究2
災害時の警戒レベルにおける避難行動促進・抑制要因の解明

II 阻害要因を無くすための防災教育プログラムの提案

研究3
学校・地域における防災教育実践の類型化

研究4
災害理解を促進するための防災教育プログラムの提案

行動変容を促すための防災教育プログラムの提案

【研究1】方法：社会調査（全国7ブロック・18～99歳を対象）を実施

災害や日々の生活に対する意識・行動に関する調査

調査主体：国立研究開発法人 防災科学技術研究所・東北大学災害科学国際研究所

調査手法：インターネットモニター調査（アイブリッジ株式会社、Freeasy）で配信・回収

調査地域：全国7ブロック（北海道・東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄）

調査対象：上記会社のモニターを対象に、上記7ブロックから各300サンプル、計2100回答を回収。18歳～99歳を対象に、性別（男性・女性の2カテゴリ）と年代（10代～60代以上の6カテゴリ）の12セルで均等割付（各セル25人）。

抽出方法：上記均等割付のもとに各セルが調査対象数（25人）に達した時点で終了

調査時期：2023年11月8日～2023年11月13日

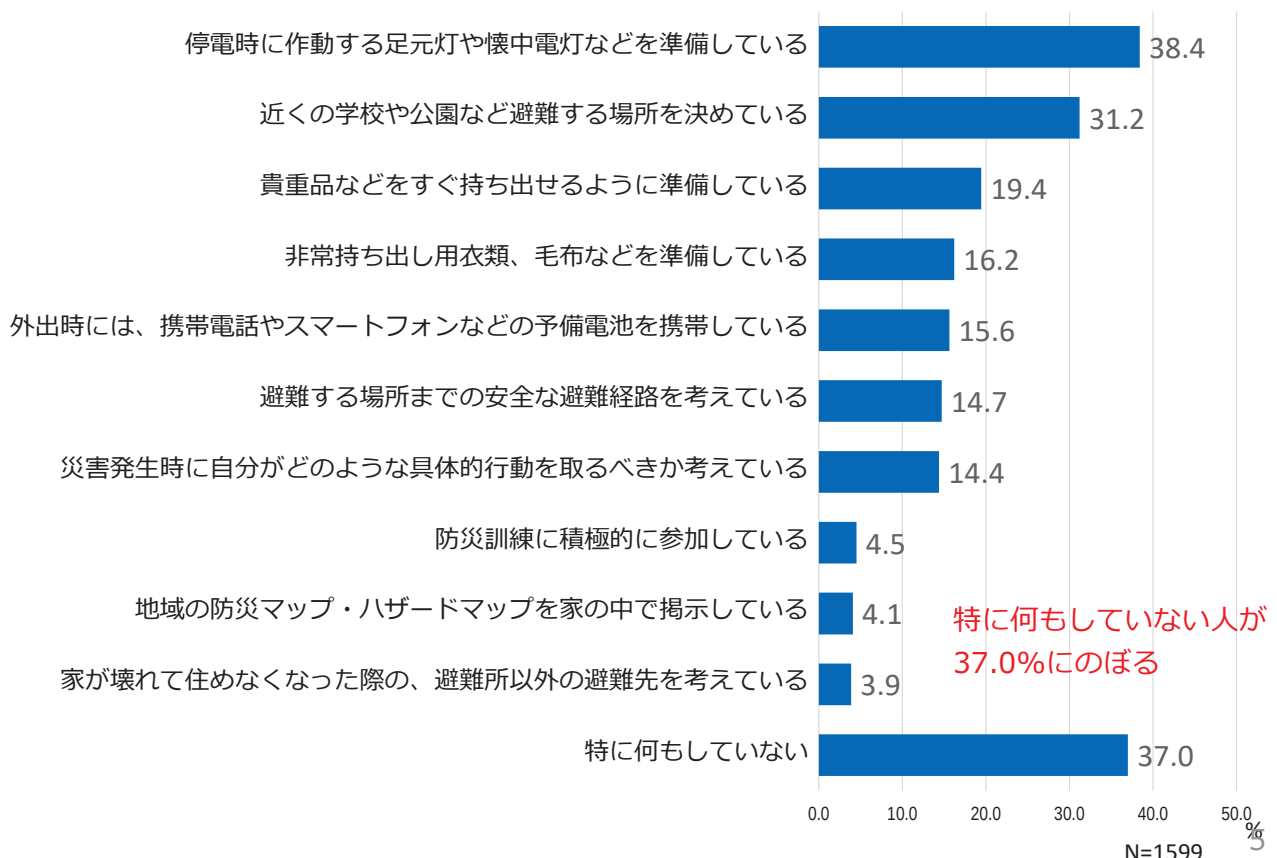
回収数：2,100票

有効回収数：有効回答のスクリーニングとして、回答数2100件のうち、調査内容に十分な注意を払わずに回答する Satisfice 行動(三浦・小林, 2015)を検出するために、「Q12.この項目は「当てはまらない」を選んでください」および「Q15-22.この項目は、「やや当てはまる」を選んでください」で該当しない回答を省いた1,599票を有効回答とした。

三浦麻子・小林哲郎 (2015) オンライン調査モニタのSatisficeに関する実験的研究, 社会心理学研究, 31(1), pp.1-12.

4

【研究1】結果1：個人の自然災害に対する備え（10項目）



【研究1】結果2：避難に関する備え（上段：地域別、下段：性別・年代別）

地域差ほぼなし	全体 (n=1599)	北海道・東北 (n=225)	関東 (n=227)	中部 (n=228)	近畿 (n=242)	中国 (n=231)	四国 (n=216)	九州・沖縄 (n=230)
1 停電時に作動する足元灯や懐中電灯などを準備している	38.4	45.3	43.2	35.1	34.3	35.5	36.6	39.1
2 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している	16.2	<u>18.2</u>	<u>22.9</u>	15.8	<u>18.2</u>	10.4	15.3	12.6 **
3 貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している	19.4	23.1	21.6	14.9	17.8	20.3	17.6	20.9
4 災害発生時に自分がどのような具体的な行動を取るべきか考えている	14.4	18.2	10.6	11.0	13.6	14.7	18.1	14.8
5 近くの学校や公園など、避難する場所を決めている	31.2	27.6	33.5	32.9	28.5	31.6	34.7	30.0
6 避難する場所までの安全な避難経路を考えている	14.7	13.8	12.3	12.7	14.9	17.3	15.3	16.5
7 外出時には、携帯電話やスマートフォンなどの予備電池を携帯している	15.6	16.9	16.7	13.6	16.1	14.7	14.8	16.5
8 防災訓練に積極的に参加している	4.5	4.9	4.4	7.0	4.5	4.8	1.4	4.3
9 地域の防災マップ・ハザードマップを家の中で掲示している	4.1	4.0	3.1	3.9	4.5	4.3	5.6	3.0
10 家が壊れて住めなくなった際の、避難所以外の避難先を考えている	3.9	2.2	4.8	2.2	4.5	4.8	4.2	4.3
11 特に何もしていない	37.0	33.3	33.9	38.2	43.0	39.0	34.7	36.1

** : p<.01, * : p<.05, 数値に下線：統計的に有意な項目における回答の多かった上位3地域

基本高齢者だが、一部、若者の防災

教育の効果も見られる	男性 (n=761)	女性 (n=838)	10代(18・19 歳)(n=221)	20代 (n=247)	30代 (n=262)	40代 (n=274)	50代 (n=288)	60代以上 (n=307)
1 停電時に作動する足元灯や懐中電灯などを準備している	36.7	40.0	37.6	22.3	28.2	32.5	44.4	<u>60.3</u> **
2 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している	16.2	16.2	20.4	12.6	17.2	14.6	16.7	16.3
3 貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している	21.0	18.0	<u>19.9</u>	17.8	17.9	19.7	18.1	22.8
4 災害発生時に自分がどのような具体的な行動を取るべきか考えている	13.8	14.9	<u>19.0</u>	14.2	12.6	12.4	10.8	<u>17.9</u> *
5 近くの学校や公園など、避難する場所を決めている	29.2	33.1	<u>36.2</u>	25.1	19.8	26.6	<u>34.0</u>	<u>43.6</u> **
6 避難する場所までの安全な避難経路を考えている	14.1	15.3	<u>14.9</u>	11.7	11.1	12.0	13.2	<u>23.8</u> **
7 外出時には、携帯電話やスマートフォンなどの予備電池を携帯している	15.0	16.2	<u>21.7</u>	<u>18.2</u>	11.5	14.2	14.6	<u>15.0</u> *
8 防災訓練に積極的に参加している	5.5	3.6	2.3	4.9	2.3	3.3	3.8	<u>9.4</u> **
9 地域の防災マップ・ハザードマップを家の中で掲示している	<u>5.3</u>	3.0 *	3.2	3.6	3.1	4.7	4.2	5.2
10 家が壊れて住めなくなった際の、避難所以外の避難先を考えている	<u>28.3</u>	23.6 *	24.4	<u>37.2</u>	<u>31.3</u>	24.1	26.7	<u>13.7</u> **
11 特に何もしていない	<u>39.6</u>	34.6 *	33.0	<u>48.6</u>	<u>44.7</u>	38.7	36.5	<u>22.8</u> **

** : p<.01, * : p<.05, 数値に下線：統計的に有意な項目において回答の多かったもの

6

【研究1】結果3：重回帰分析の結果

	b	SE	β	95%LCI	95%HCI	VIF
(定数)	-.019	.192		-.396	.358	
年齢	.007 *	.004	.063	.000	.014	1.951
性別	-.060	.090	-.016	-.237	.117	1.048
結婚	.098	.136	.025	-.169	.366	2.334
子ども	-.127	.136	-.032	-.394	.141	2.223
収入	.141	.095	.036	-.046	.328	1.14
持ち家	.023	.101	.006	-.174	.221	1.161
地域居住年数	-.028	.107	-.007	-.237	.181	1.322
被災経験	.456 **	.108	.099	.244	.668	1.043
人的被害	.080	.141	.013	-.196	.357	1.05
ハザードマップ認知度	1.308 **	.110	.286	1.093	1.522	1.09
災害切迫度	.431 **	.091	.112	.253	.610	1.055
地域交流度	.538 **	.091	.140	.360	.717	1.061

R²

.158

F(12, 1586)

25.98 **

「ハザードマップにおける理解」が
「避難のそなえ」を促進する

** : p<.01, * : p<.05

7

【研究1】結果4：避難に関する備え（重回帰分析で有意な関連（年齢を除く））

	全体 (n=1599)	被災経験無 (n=1,241)	被災経験有 (n=358)	HM認知度低 (n=1,234)	HM認知度高 (n=365)	災害切迫度低 (n=864)	災害切迫度高 (n=735)	地域交流度高 (n=861)	地域交流度低 (n=738)
1 停電時に作動する足元灯や懐中電灯などを準備している	38.4	35.1	50.0 **	33.7	54.2 **	33.8	43.8 **	31.5	46.5 **
2 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している	16.2	13.5	25.4 **	13.2	26.3 **	13.9	18.9 **	13.5	19.4 **
3 貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している	19.4	17.7	25.4 **	15.2	33.7 **	15.7	23.8 **	17.4	21.8 *
4 災害発生時に自分がどのような具体的行動を取るべきか考えている	14.4	12.7	20.1 **	9.8	29.9 **	11.2	18.1 **	12.4	16.7 *
5 近くの学校や公園など、避難する場所を決めている	31.2	29.3	37.7 **	25.9	49.3 **	25.7	37.7 **	24.0	39.6 **
6 避難する場所までの安全な避難経路を考えている	14.7	13.8	17.9	10.5	29.0 **	12.0	17.8 **	11.1	18.8 **
7 外出時には、携帯電話やスマートフォンなどの予備電池を携帯している	15.6	15.1	17.6	13.4	23.3 **	13.2	18.5 **	13.1	18.6 **
8 防災訓練に積極的に参加している	4.5	3.6	7.5 **	2.1	12.6 **	3.9	5.2	2.4	6.9 **
9 地域の防災マップ・ハザードマップを家の中で掲示している	4.1	3.0	7.8 **	1.7	12.1 **	2.7	5.7 **	2.3	6.1 **
10 家が壊れて住めなくなった際の、避難所以外の避難先を考えている	3.9	3.4	5.6	2.0	10.1 **	2.9	5.0 *	2.0	6.1 **
11 特に何もしていない	37.0	40.7	24.0 **	41.8	20.5 **	45.4	27.1 **	44.5	28.2 **

**：p<.01, *：p<.05, 数値に下線：統計的に有意な項目において回答の多かったもの



- 避難に関する備えを進めるためには、「ハザードマップ」を利用して自宅や地域の危険性を知ること「災害が迫っている感覚」を高めながら避難場所や避難経路を考えることが効果的である。
- また、地域の防災訓練などの行事に参加して「地域交流をはかる」ことで、災害対応行動へのコミットメントや利他的動機づけによって避難への備え行動が強化されることが考えられる。

8

【研究2】方法：社会調査（介入シミュレーション調査）を実施

スクリーニング調査(24/3/1~2)



4000名を対象に、年齢×年代ごとにスクリーニング調査

	男性	女性
20代	400	400
30代	400	400
40代	400	400
50代	400	400
60代以上	400	400

- 自分の被災経験を「わからない」「災害経験無し」を除外
- 20秒未満、1200秒以上の回答時間を除外
- Satisfice不正解を除外



1000程度の回答者を想定し、性別×年代ごとに最大数の1543名を抽出

	男性	女性
20代	171	157
30代	150	150
40代	150	150
50代	150	150
60代以上	157	158

本調査(24/3/5)



1543名を対象にした本調査

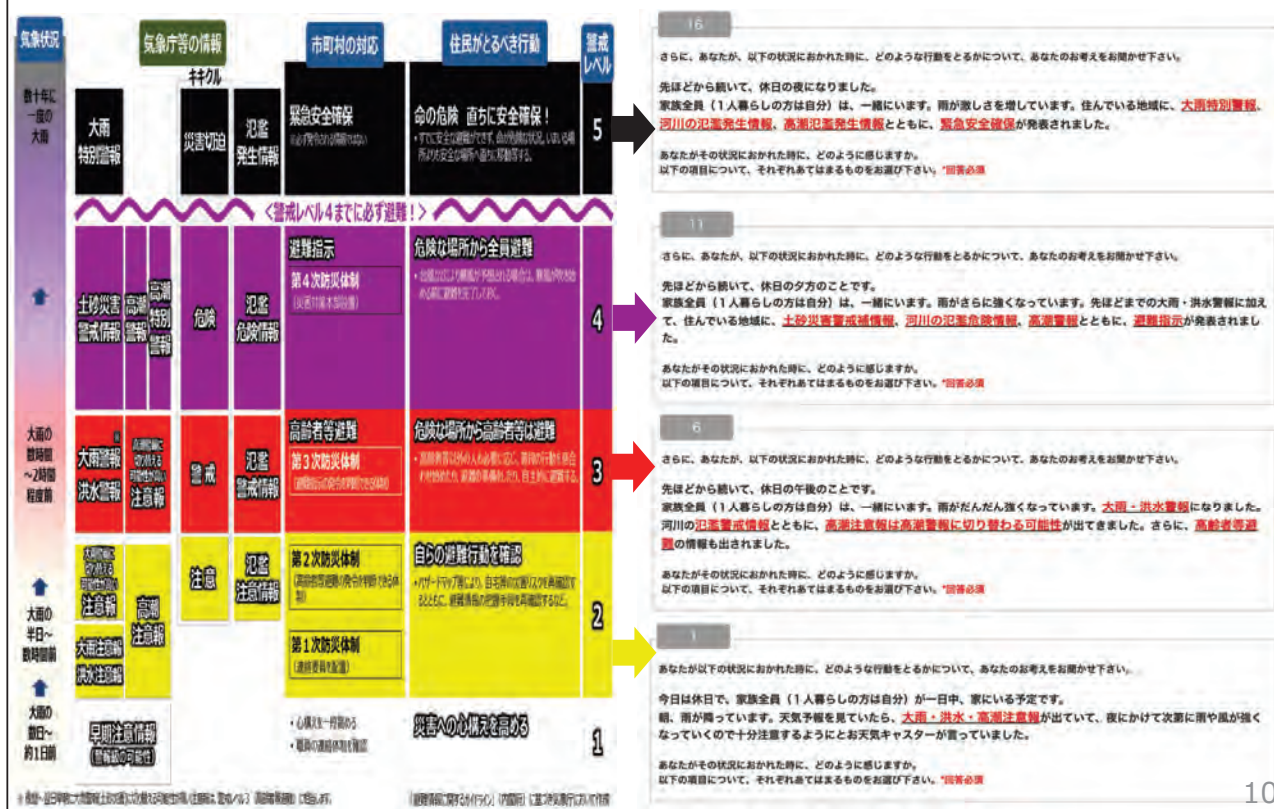
980名の有効回答が得られた。

被災経験がある980名のデータをもとに介入シミュレーション調査を実施

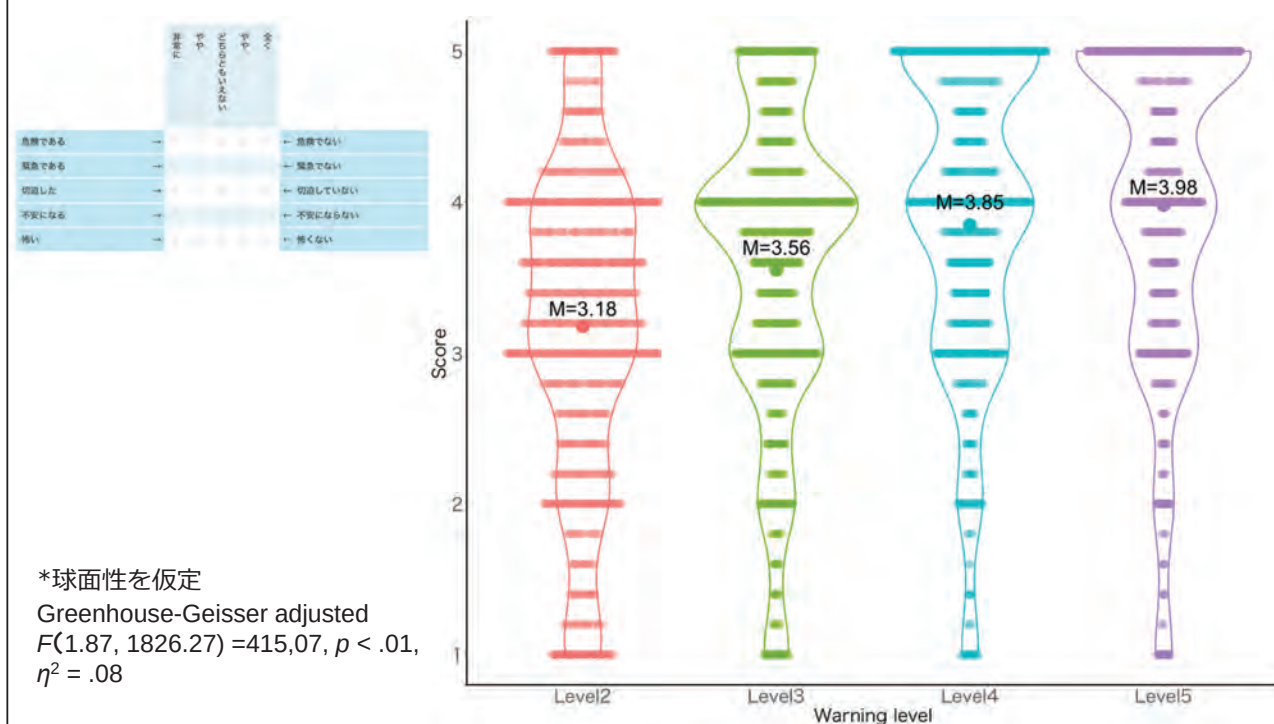
9

【研究2】方法：防災気象情報の警戒レベルごとの行動変容の解明

大雨の警戒レベルのシナリオを提示し、各シナリオの下で、同じ問をくり返す



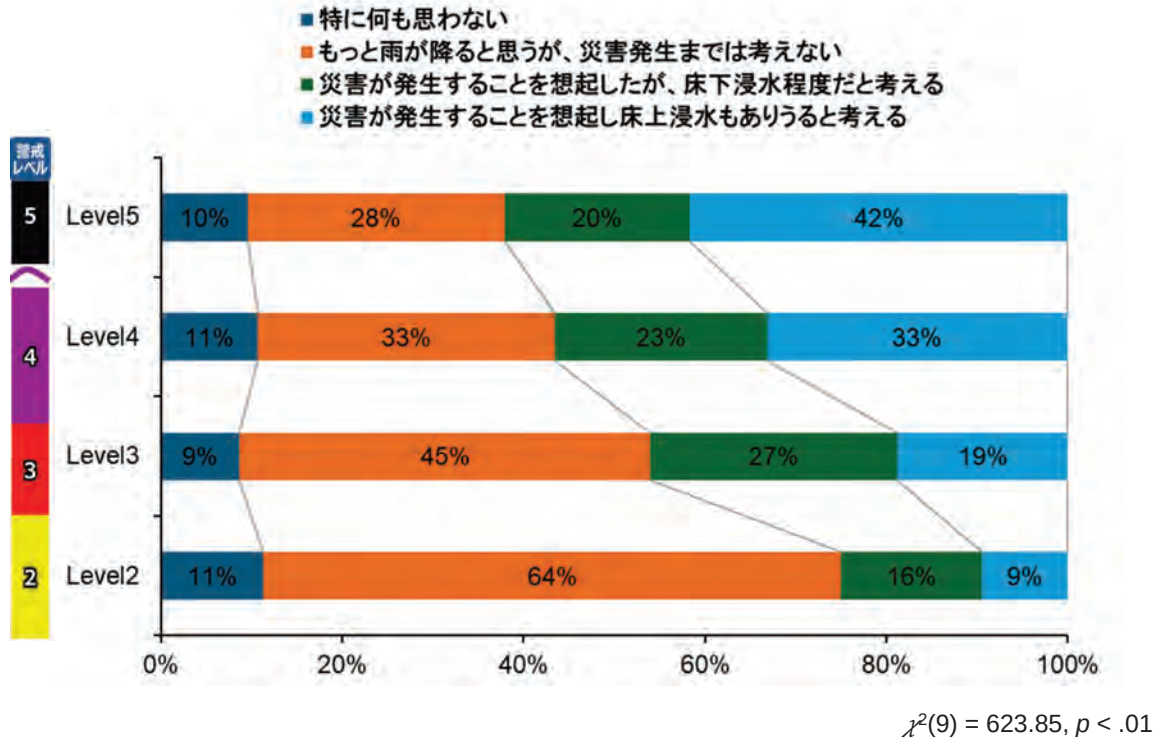
【研究2】結果：警戒レベルごとの感情的評価の得点



レベル2（黄）からレベル3（赤）、レベル3（赤）からレベル4（紫）において感情的評価が一段と高まる

【研究2】結果：警戒レベルごとのリスク予期

この時点で、あなたは「水害が発生するかもしれない」と思いますか。



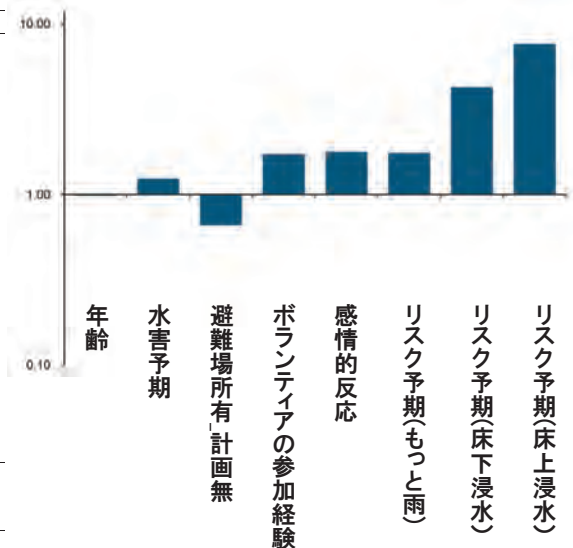
12

【研究2】結果：警戒レベル2の順序ロジスティック回帰

警戒level2の
順序ロジスティック回帰分析



	B	Z	odds rate	LL95%CI	UL95%CI
年齢	-.017	-2.903 **	.983	.971	.994
性別	-.030	-.212	.971	.737	1.279
未婚	-.107	-.490	.898	.586	1.381
年収	-.040	-1.528	.961	.913	1.011
持ち家	-.021	-.128	.979	.711	1.350
子どもの有無	.073	.323	1.076	.691	1.679
災害弱者の有無	-.049	-.316	.953	.705	1.287
被災経験の有無	-.015	-.102	.985	.739	1.313
水害予期	.213	2.005 *	1.238	1.005	1.526
ハザードマップの認識	.048	.402	1.049	.830	1.329
防災行動	.017	1.068	1.017	.986	1.050
避難場所、計画無	-.410	-2.539 *	.664	.483	.910
避難場所、計画有	-.137	-.929	.872	.653	1.165
防災訓練の参加経験	.086	.478	1.090	.764	1.552
ボランティアの参加経験	.551	2.421 *	1.734	1.110	2.711
Level2の感情的反応	.578	6.966 ***	1.782	1.518	2.102
リスク予期(もっと雨)	.565	2.730 **	1.759	1.187	2.681
リスク予期(床下浸水)	1.452	5.990 ***	4.270	2.681	6.951
リスク予期(床上浸水)	2.033	7.301 ***	7.636	4.460	13.314
閾値					
Nothing stay	-.816	-1.438			
stay evacuation	1.905	3.366 **			



有意な変数のodds rate

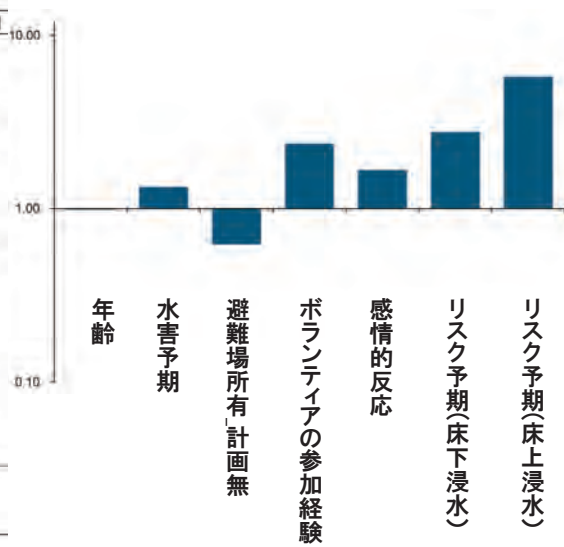
13

【研究2】結果：警戒レベル3の順序ロジスティック回帰

警戒level3の 順序ロジスティック回帰分析



	B	Z	odds rate	LL95%CI	UL95%CI
年齢	-.015	-2.684 **	.985	.974	.996
性別	.047	.339	1.048	.800	1.374
未婚	-.159	-.751	.853	.563	1.291
年収	-.047	-1.866 ..	.955	.909	1.002
持ち家	-.122	-.776	.885	.649	1.205
子どもの有無	.154	.706	1.166	.761	1.790
災害弱者の有無	.014	.095	1.014	.758	1.358
被災経験の有無	-.252	-1.765	.777	.587	1.028
水害予期	.284	2.784 **	1.329	1.088	1.623
ハザードマップの認識	.023	.203	1.024	.817	1.283
防災行動	.010	.035	1.010	.979	1.044
避難場所、計画無	-.476	-3.080 **	.621	.458	.841
避難場所、計画有	.031	.212	1.031	.775	1.373
防災訓練の参加経験	.037	.205	1.037	.729	1.474
ボランティアの参加経験	.866	3.761 ***	2.377	1.518	3.745
Level3の感情的反応	.511	6.072 ***	1.668	1.416	1.970
リスク予期(もつと雨)	.098	.489	1.103	.747	1.646
リスク予期(床上浸水)	1.014	4.590 ***	2.757	1.796	4.277
リスク予期(床上浸水)	1.753	7.134 ***	5.773	3.582	9.399
閾値					
Nothing stay	-1.157	-2.028 *			
stay evacuation	1.596	2.798 **			

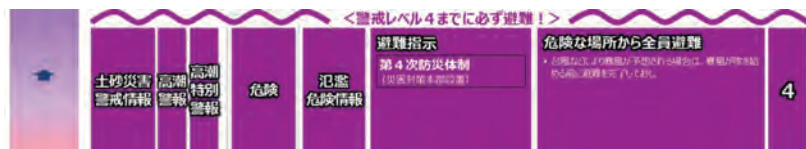


有意な変数のodds rate

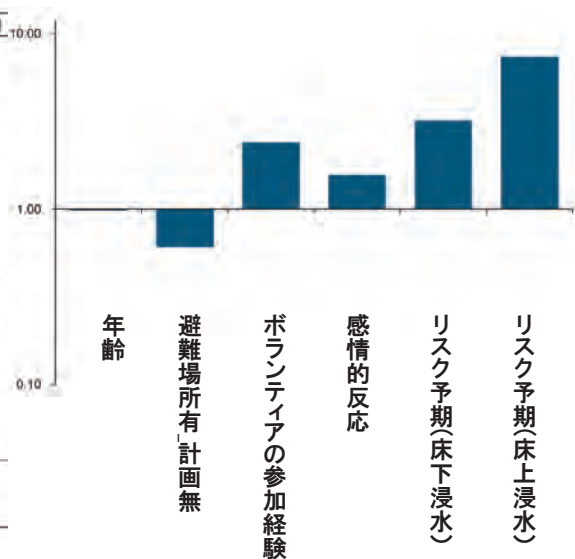
14

【研究2】結果：警戒レベル4の順序ロジスティック回帰

警戒level4の 順序ロジスティック回帰分析



	B	Z	odds rate	LL95%CI	UL95%CI
年齢	-.019	-3.064 **	.982	.970	.993
性別	.044	.309	1.045	.790	1.382
未婚	.189	.862	1.208	.786	1.857
年収	-.010	-.374	.990	.941	1.042
持ち家	.033	.204	1.034	.751	1.424
子どもの有無	.262	1.157	1.300	.834	2.031
災害弱者の有無	.057	.366	1.058	.782	1.433
被災経験の有無	-.150	-1.015	.861	.645	1.149
水害予期	.192	1.850	1.212	.988	1.486
ハザードマップの認識	-.150	-1.259	.861	.682	1.086
防災行動	.026	.198	1.027	.990	1.066
避難場所、計画無	-.502	-3.234 **	.606	.446	.820
避難場所、計画有	-.063	-.418	.939	.699	1.260
防災訓練の参加経験	.218	1.171	1.244	.864	1.796
ボランティアの参加経験	.878	3.459 ***	2.406	1.471	3.983
Level4の感情的反応	.447	5.170 ***	1.564	1.322	1.856
リスク予期(もつと雨)	.098	.539	1.103	.773	1.580
リスク予期(床上浸水)	1.162	5.621 ***	3.196	2.138	4.810
リスク予期(床上浸水)	2.003	9.130 ***	7.412	4.841	11.448
閾値					
Nothing stay	-1.651	-2.763 **			
stay evacuation	1.163	1.949			

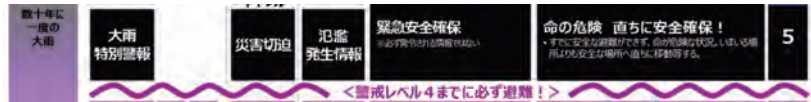


有意な変数のodds rate

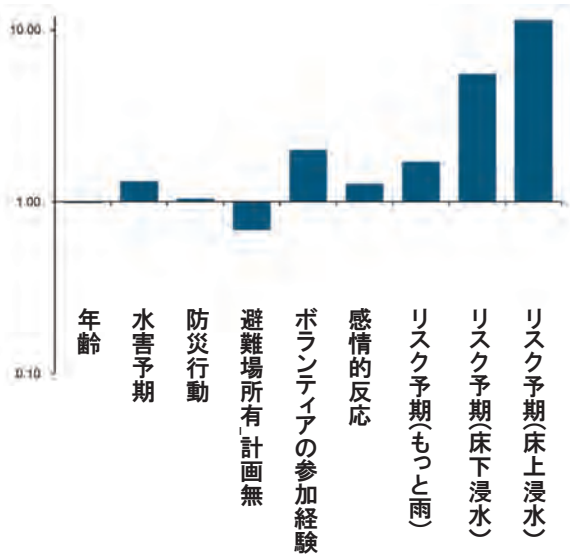
15

【研究2】結果：警戒レベル5の順序ロジスティック回帰

警戒level5の 順序ロジスティック回帰分析



	B	Z	odds rate	LL95%CI	UL95%CI
年齢	-.021	-3.373 ***	.980	.968	.991
性別	.113	.778	1.120	.842	1.488
未婚	.047	.216	1.048	.683	1.610
年収	-.031	-1.183	.969	.921	1.021
持ち家	.122	.731	1.129	.815	1.565
子どもの有無	.244	1.070	1.277	.817	2.000
災害弱者の有無	.174	1.114	1.191	.876	1.619
被災経験の有無	-.240	-1.609	.786	.587	1.054
水害予期	.277	2.629 **	1.319	1.073	1.622
ハザードマップの認識	-.151	-1.253	.859	.677	1.088
防災行動	.039	2.044 *	1.040	1.002	1.080
避難場所 計画無	-.383	-2.449 *	.682	.501	.925
避難場所 計画有	-.092	-.602	.912	.676	1.228
防災訓練の参加経験	.329	1.741	1.390	.961	2.019
ボランティアの参加経験	.695	2.715 **	2.003	1.221	3.335
Level5の感情的反応	.241	2.787 **	1.273	1.074	1.509
リスク予期(もつと雨)	.536	2.752 **	1.709	1.170	2.512
リスク予期(床上浸水)	1.714	7.466 ***	5.553	3.556	8.753
リスク予期(床上浸水)	2.438	10.455 ***	11.446	7.283	18.178
閾値					
Nothing stay	-.3.130	-5.029 **			
stay evacuation	-.271	-.445			



有意な変数のodds rate

「リスク予期」や「感情的反応」や「ボランティアの参加経験」が避難行動の促進要因となっている。一方で「事前の避難計画が無い」ことが抑制要因となっている。16

【研究2】考察：「避難への備え」と「避難行動」の促進要因の違い

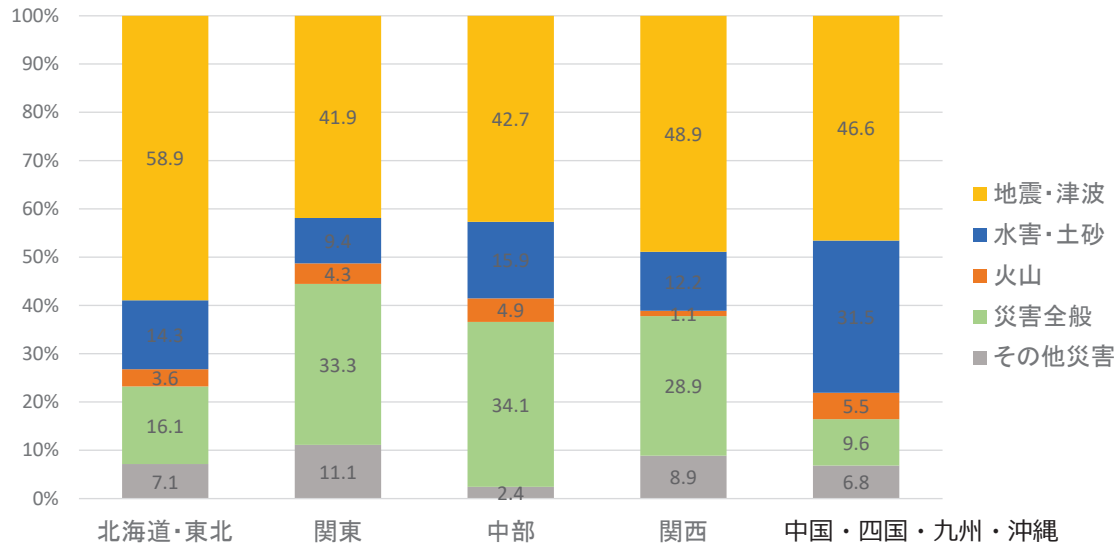


- 具体的な避難行動を促進するためには、「ハザードマップの認識」は有意ではなかった。ハザードマップを見ていて、避難場所を知っているだけでは、避難への備えには影響するが（研究1）、大雨時における避難行動にはつながらない。実際に、避難場所を知っているが避難計画がなかった人は、避難を抑制する要因になったいた。
- 「具体的な被害までイメージができ（リスク予期）」さらに「感情的な高まり」がないと避難行動には結びつかない。感情がリスク行動を促進する、いわゆる感情のヒューリスティック（Siegrist & Gutscher, 2008）を考える必要になる。

【研究3】方法：学校や地域での防災教育実践の類型化

日本の防災教育の先進例を支援してきた内閣府 防災教育チャレンジプランに採択された団体が実践終了時に執筆する「実践報告書」（2004年度から2021年度まで計283実践）を分析することで、防災教育実践を類型化し、日本における防災教育の実態と、今後、防災教育を一層推進するための課題を明らかにすることを目的とした。

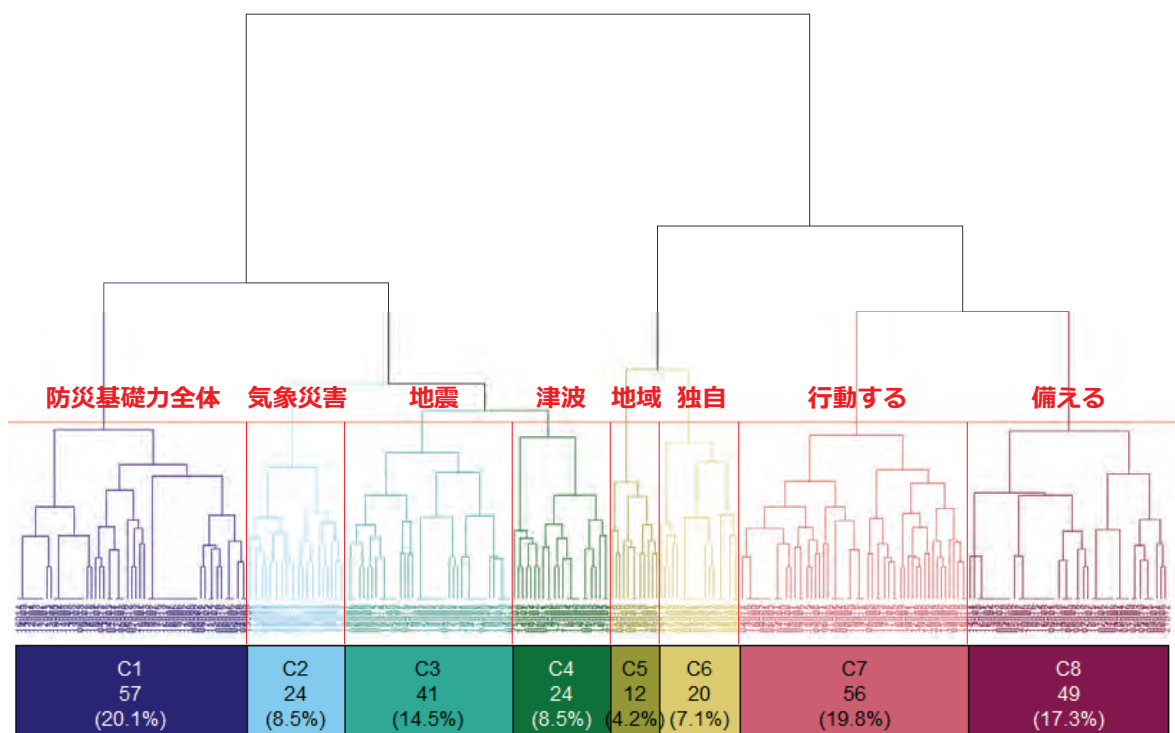
地域別の防災教育実践



$\chi^2(16) = 40.01, p < .01, N = 283$ 18

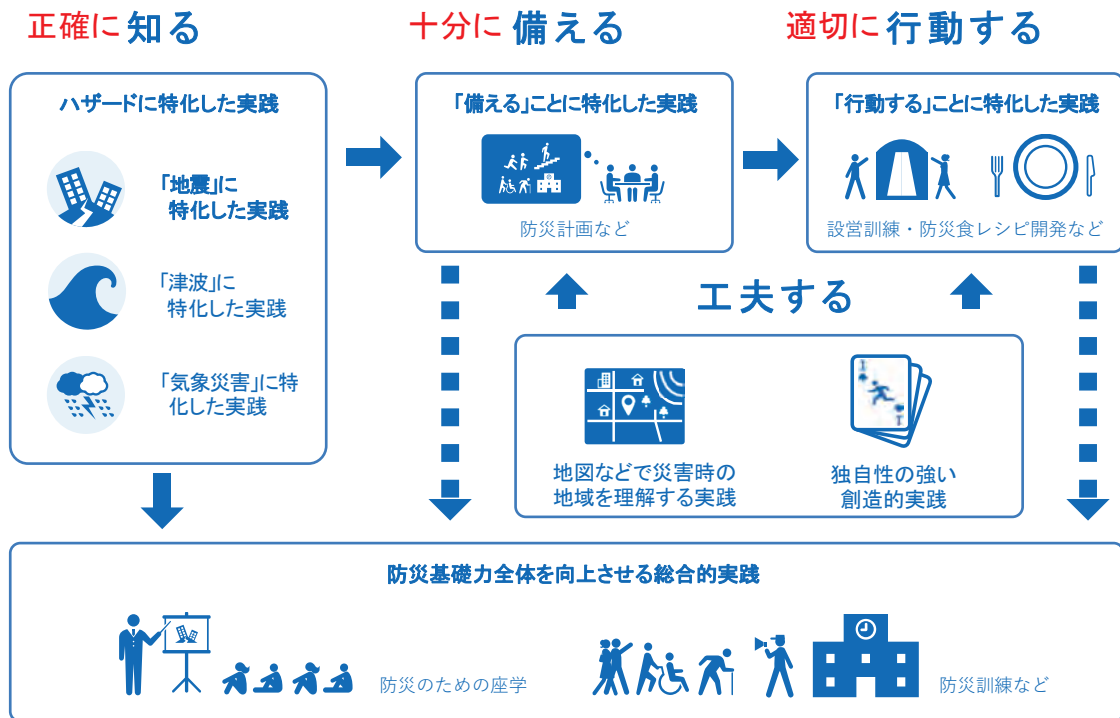
【研究3】結果1：学校や地域での防災教育実践の類型化

防災教育実践の類型化（デンドログラム）



N=283 19

【研究3】結果1：防災教育実践の類型化（クラスタをもとにした図示）



「知る→備える→行動する」という3ステップで防災教育実践を体系化できる

20

【研究3】結果1：防災教育実践の類型化（クラスター1～4）

クラスター1
防災基礎力全体を向上させる総合的実践

南中 学校・地域支援組織「チームMY-SP」設立

既存組織の横断的連携

新たな歩道開通

学校の授業や課外活動など時間を活用

年間を通じて他種・多様なプランを実践

クラスター2
「気象災害」に特化した実践

避難路の確認

防災マップづくり

過去の水害の被災経験

天気観察・記録

クラスター3
「地震」に特化した実践

地震防災の教材作成・実施

地震の被災地の現地学習

緊急地震速報訓練や事前学習

クラスター4
「津波」に特化した実践

津波被災の記録を視聴する学習

過去の津波の教訓を伝える演劇

仮設住宅居住者との合同避難訓練

21

【研究3】結果1：防災教育実践の類型化（クラスター5～8）

クラスター5 地図などで災害時の地域を理解する実践



クラスター6 独自性の強い創造的実践



クラスター7 「行動する」ことに特化した実践



クラスター8 「備える」ことに特化した実践

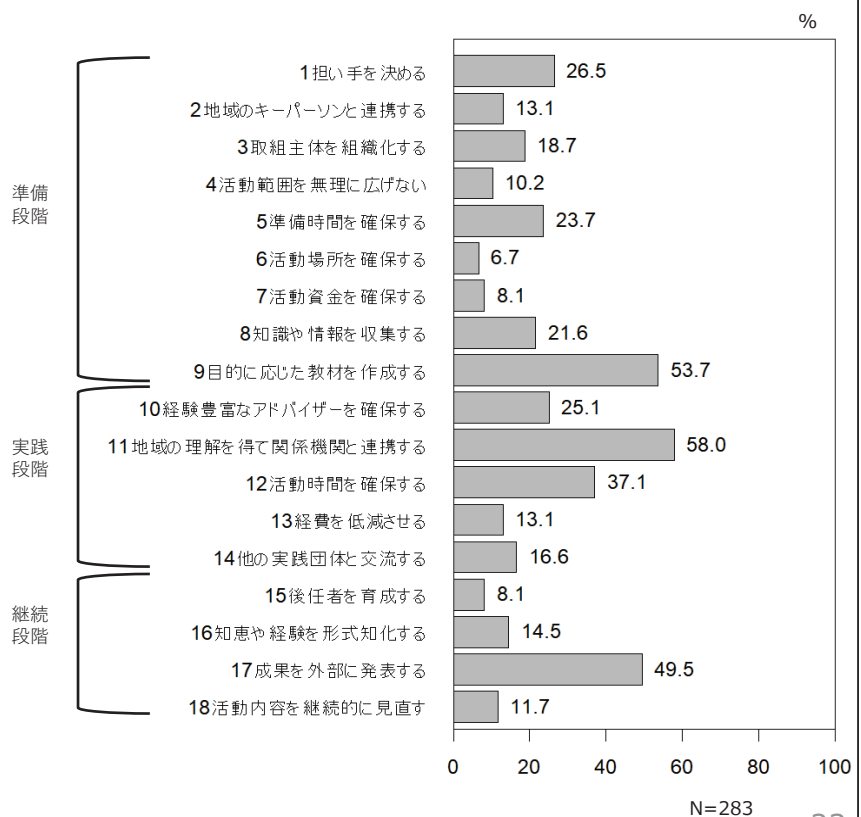


22

【研究3】結果2：防災教育を効果的に実践するためのマネジメント



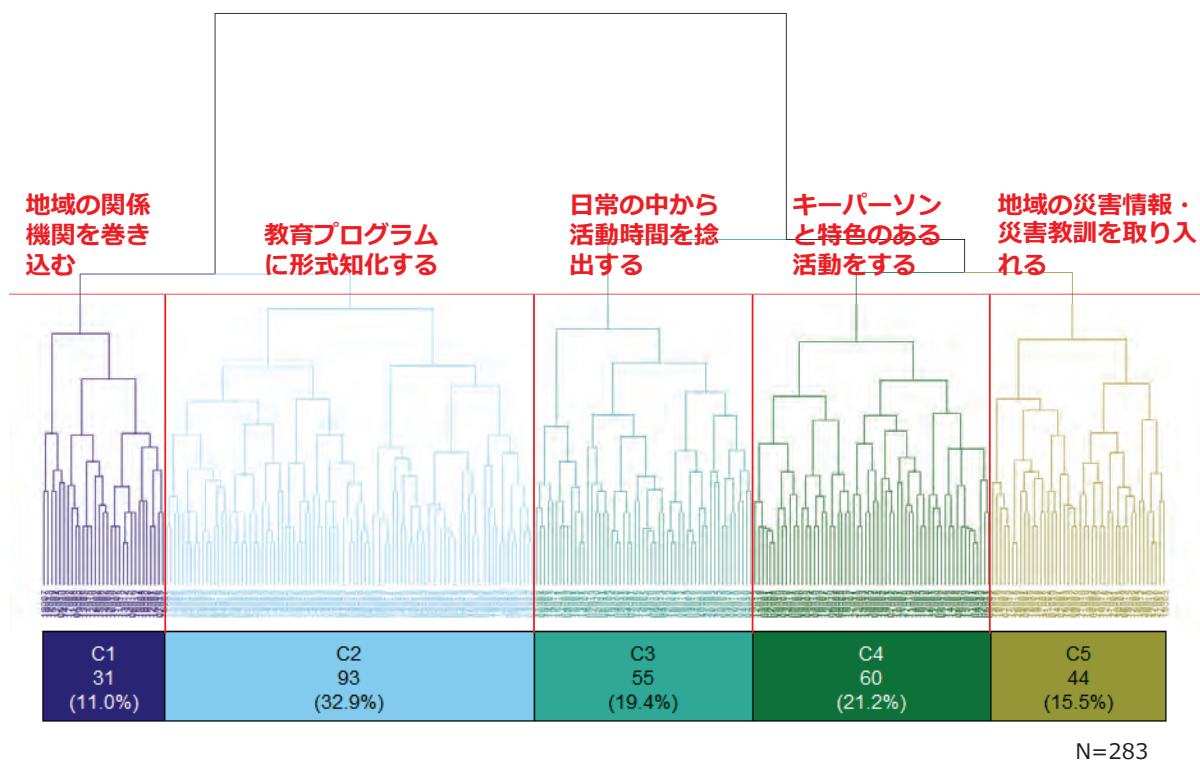
内閣府・防災教育チャレンジプラン
実行委員会(2015)



23

【研究3】結果2：防災教育を効果的に実践するためのマネジメントの類型化

防災教育実践マネジメントの類型化（デンドログラム）



24

【研究3】結果2：防災教育実践マネジメントの類型化（クラスタをもとにした図示）

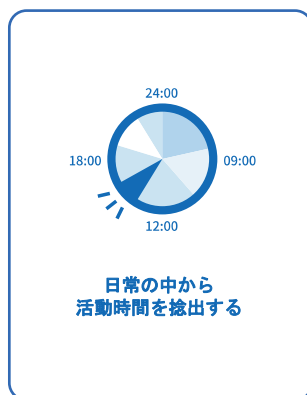
第1ステップ

参加者の「わがこと意識」を高めるような「活動内容づくり」



第2ステップ

日常活動に「防災」の要素を入れ込む無理のない「活動形態づくり」



第3ステップ

多くの参加者を集めて、成果を組織外へ広めていく「活動継続づくり」



- ・ 防災教育実践は「知る→備える→行動する」ことで、体系的な教育プログラムとして実践することができる
- ・ 実際に防災教育実践をマネジメントする際には、3つのステップを踏んでいながら実践を形式知化していくことが重要である

25

【研究4】方法：災害理解を促進するための防災教育プログラムの提案

本研究で開発した防災訓練プログラム

兵庫県立佐用高等学校：兵庫県佐用町は、2009年8月に発生した豪雨災害で死者・行方不明者20人、家屋被害1,700棟以上の大きな被害を受けた。しかし災害から10年以上が経過し、佐用町外から通学する高校生を含めて、災害に対する「わがこと意識」は高くない現状にある。

時間	内容	場所
8:55～9:40	Long homeroom（事前アンケートなど）	各HR教室
9:50～9:55	訓練全体のスケジュール説明（担任教員より）	各HR教室
9:55～10:00	校内放送での緊急地震速報によるシェイクアウト訓練	
10:00～10:10	教室から校庭への避難（スピーカードローンによる避難誘導）	校庭
10:10～10:20	避難訓練の講評（佐用消防署長、佐用高校校長）	
10:20～10:30	ドローンをを用いた物資搬送のデモンストレーション	
10:30～10:35	災害時のドローン活用およびドローン減災士の紹介	
10:45～10:50	体育館への移動、グループ分け、導入説明	体育館
10:50～11:12	2009年佐用町水害の映像の視聴	
11:12～11:25	佐用町役場職員による体験談・ハザードマップ紹介	
11:25～11:30	防災ゲーミング教材の説明（パワーポイントおよび動画使用）	
11:30～12:00	防災ゲーミング教材の実践	
12:00～12:05	まとめ	
12:15～12:25	各HR教室に移動、事後アンケートの記入	各HR教室

26

【研究4】結果1：作成した学習指導案・スライド

27

【研究4】結果2：ゲーミング教材をもとにした「わがこと意識」の向上

市販ゲーム「みんなで遊んでたすカルテット」（左）と
アレンジしたルール補助資料（右上）・ルール説明動画とQRコード（右下）

みんなで遊んで たすカルテット

「みんなで遊んでたすカルテット」は、「地震」「津波」「サバイバル」など防災に関する10のテーマに分かれています。各テーマのカードは4枚組1セットで、それぞれテーマに関するキーワードが書かれており、この4枚組を揃えていくゲームです。

4枚を揃えていく過程で、テーマとキーワードを繰り返し口にする事になり、自然と、防災に必要なことを覚えることができます。



28

【研究4】結果3：当日のようす（ドローンを用いた避難訓練）



ドローンを操縦する大学生（左）と訓練に協力する消防職員（右2人）



スピーカードローンで避難誘導する佐用高校放送部員（真ん中2人）と高校教員（右）



スピーカードローンは拡声器を搭載したドローン



シェイクアウト訓練のようす（校庭）



ドローンの操縦は有資格者が担当



スピーカードローン（左）と撮影カメラ搭載ドローン（右）



校庭に避難する高校生と地域住民



校庭に避難する小学生



高校生等が近づかないように安全管理をする



物資搬送ドローン（左）による物資搬送（薬を想定）のデモンストレーション



ドローンによるデモンストレーションのようすを見学



講評およびドローン減災士の説明

29

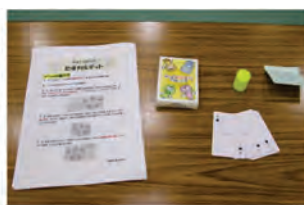
【研究4】結果4：当日のようす（映像・体験談を用いた水害学習、ゲーミング教材）



事前の打ち合わせ



体育館での事前準備



机の上の必要物品のセッティング



体験学習についての導入



佐用町役場から提供された水害映像の視聴



役場職員による体験談とハザードマップの紹介



ワークシートとして配られたハザードマップの確認



高校生に説明後、実際にゲーム開始



160人余が30以上のグループにわかれて実施



ゲーミング教材を用いた防災学習



カードの内容を覚えながらゲームを有利に進める

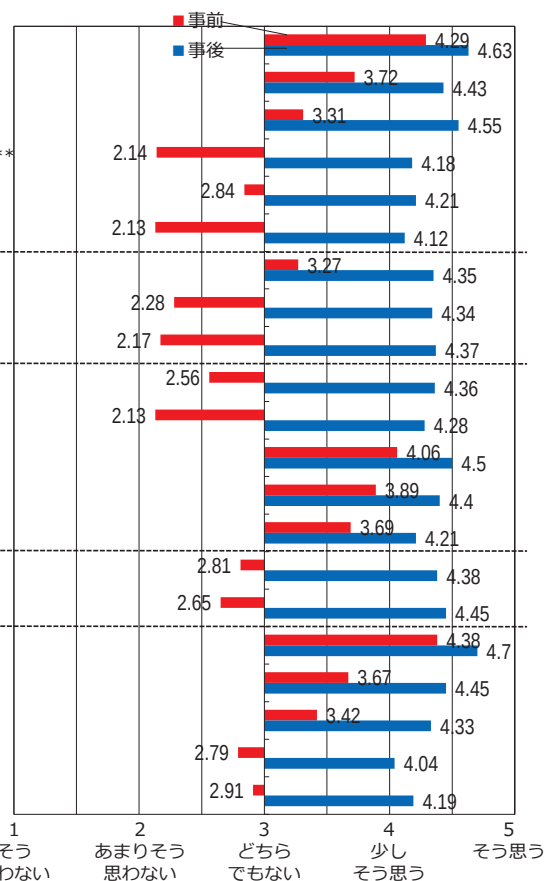


各グループの進捗度・理解度に応じてゲーム中に補助をする

【研究4】結果5：学習目標の達成度

- 大雨が降った時、どのような被害が出るか知っている**
- 大雨が降った直後、自分がどのような行動を取るべきか知っている**
- 大雨が降った時、佐用町がどのような状況になるか知っている**
- ライフラインが使用できない時、佐用町にどのような支援がくるか知っている**
- 水害発生後の復興の過程で自分が何をすべきか知っている**
- 2009年佐用町水害での被害について説明できる**
- 大雨災害時、どのような箇所が危険箇所となるか知っている**
- 大雨災害時、佐用町地域のどこが危ないか知っている**
- 大雨災害時、佐用町がどの程度の深さの水に浸かるか知っている**
- 佐用町は地震が発生しやすい地域であるということを知っている**
- 地震発生時、佐用町でどのくらいの揺れが起こるか知っている**
- 地震発生直後取るべき行動を知っている**
- 地震発生時、実際に自分の身を守ることができる**
- 地震発生時、人々がどのような心理状態になるのか知っている**
- 日常でドローンがどのように活用されているか知っている**
- 災害時にドローンがどのように活用されているか知っている**
- 日常から「災害に対する備えは大切である」と思っている**
- 災害発生直後に自分が何をすべきか知っている**
- 災害発生直後、実際に自分がすべきことを行動することができる**
- 防災にまつわる様々な知識をよく知っている方**
- 災害発生に備えて、普段どのような備えをすべきか説明できる**

N=163, 対応のあるt検定 ** p<.01



【研究4】結果6：因子分析表（事前評価→事後評価）

		因子負荷量				
学習目標		因子1	因子2	因子3	因子4	共通性
■ 因子1 災害一般	19_災害発生直後、実際に自分がすべきことを行動することができる	.84	.19	-.07	-.15	.72
	18_災害発生直後に自分が何をすべきか知っている	.82	-.01	.02	-.09	.76
	01_大雨が降った時、どのような被害が出るか知っている	.76	.04	.01	-.18	.49
	13_地震発生時、実際に自分の身を守ることができる	.75	-.04	.01	-.03	.52
	12_地震発生直後に取るべき行動を知っている	.70	-.08	-.01	.10	.52
	17_日常から「災害に対する備えは大切である」と思っている	.55	-.06	-.07	-.03	.25
	20_防災にまつわる様々な知識をよく知っている方だ	.55	.09	.15	-.81	.51
	14_地震発生時、人々がどのような心理状態になるか知っている	.53	-.18	.10	.20	.38
	02_大雨が降った直後、自分がどのような行動を取るべきか知っている	.49	.22	-.01	.01	.38
	04_ライフラインが使用できない時、佐用町にどのような支援がくるか知っている	-.07	.72	-.08	.14	.50
■ 因子2 佐用町での水害	05_水害発生後の復興の過程で自分が何をすべきか知っている	.24	.62	-.15	.10	.55
	03_大雨が降った時、佐用町がどのような状況になるか知っている	.17	.59	-.10	-.06	.37
	08_大雨災害時、佐用町地域のどこが危険か知っている	-.13	.58	.38	-.08	.62
	09_大雨災害時、佐用町がどのような状況になるか知っている	-.11	.52	.45	-.11	.63
	06_2009年佐用町水害での被害について説明できる	-.11	.42	.25	.17	.42
■ 因子3 佐用町での地震	10_佐用町は地震が発生しやすい地域であるということを知っている	.10	-.20	.93	-.02	.72
	11_地震発生時、佐用町でどのくらいの揺れが起こるか知っている	-.03	.05	.86	.00	.77
	07_大雨災害時、どのような箇所が危険箇所となるか知っている	.27	.09	.29	.12	.34
	15_日常でドローンがどのように活用されているか知っている	-.03	.00	-.02	.95	.86
■ 因子4 ドローン活用	16_災害時にドローンがどのように活用されているか知っている	-.06	.13	-.04	.80	.67
	21_災害発生に備えて、普段どのような備えをすべきか説明できる	.28	.00	.08	.38	.37
固有値		7.08	2.21	1.3	0.78	11.3
寄与率(%)		33.7	10.5	6.02	3.72	53.9

佐用町の地域全体における災害リスクの理解と、実際のとるべき行動について理解が促進された

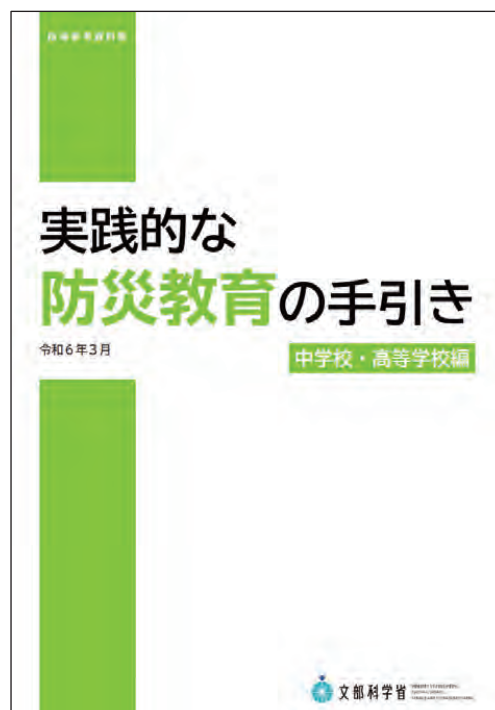


- ・災害に「わがこと意識」を持つための防災訓練プログラムを提案した。高校生の興味を高めるように、ドローンによる避難訓練、ゲーミング教材を取り入れながら、午前中で終了するプログラムを設計した。
- ・21の学習目標について、全項目で統計的に有意な上昇が見られた。またプログラムを通し、地域における災害時リスクを理解し、災害時に自分自身が取るべき対応を理解したことがわかった。

32



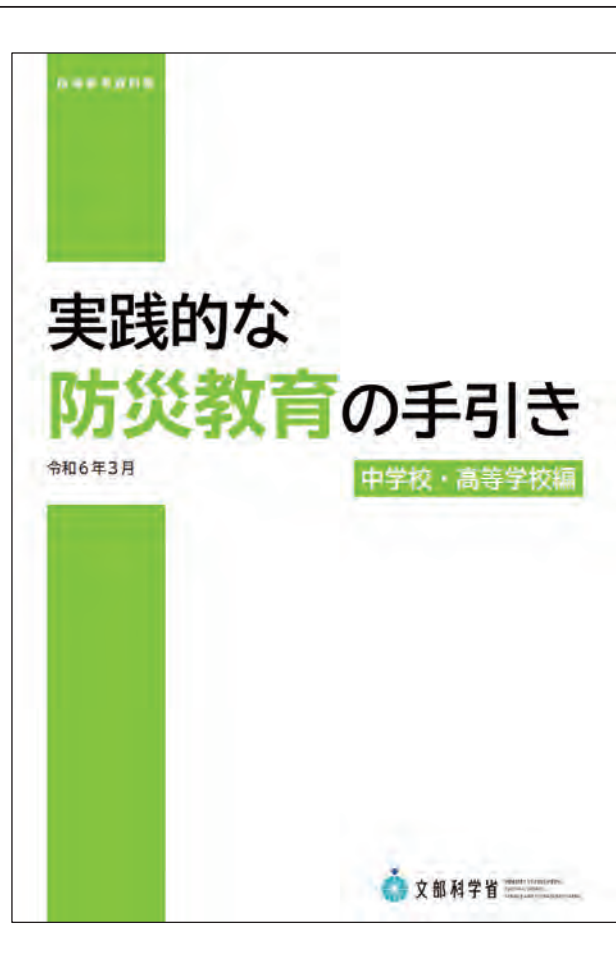
文部科学省（2023）
指導参考資料集
実践的な防災教育の手引き
小学校編



文部科学省（2024）
指導参考資料集
実践的な防災教育の手引き
中学校・高等学校編



33



実践的な防災教育の手引き 中学校・高等学校編

目次

※ページ番号の右側に示している災害分類は、本事例で主として関わるものを示しているが、それ以外でも活用することができる。

第1章

「第3次学校安全の推進に関する計画」を踏まえた これからの防災教育について	4
--	---

第2章

「知る、備える、行動する」の3つの視点で取り組む防災教育	8
------------------------------	---

第3章

地域を創る防災教育の展開 ～発達の段階を踏まえた地域との連携・協働～	16
---------------------------------------	----

第4章

実践事例集 より実践的な避難訓練のために～避難訓練の改善事例～	24
------------------------------------	----

■事前、訓練、振り返りの3ステップで実施する防災教育プログラム【洪水】	32 ●洪水
（ステップ1）事前学習1 洪水による災害を学び洪水への備えを考える	34
（ステップ2）事前学習2 洪水災害のリスクを理解して自分の身を守るための 対応行動を考える	38
（ステップ3）グループワーク 洪水災害への対応力を高める	46
■事前、訓練、振り返りの3ステップで実施する防災教育プログラム【津波】	48 ●津波
（ステップ1）事前学習1 津波による災害を学び津波への備えを考える	50
（ステップ2）事前学習2 津波災害のリスクを理解して身を守るための対応行動を考える	54
（ステップ3）グループワーク 津波災害への対応力を高める	62
■事前、訓練、振り返りの3ステップで実施する防災教育プログラム【地震】	64 ●地震
地震アンケート例（英語版）	65
（ステップ1）事前学習 緊急地震速報を聞いたときの正しい行動を 訪日外国人に理解してもらう	66
共同編集用ワークシート「4-strip frame」の例	71
（ステップ2）実践 作成した情報（シナリオ）を使って外国人と交流する	72
（ステップ3）振り返り 問題点を整理して振り返る	74

34

■事前、訓練、振り返りの3ステップで実施する防災教育プログラム【火山】	76 ●火山
（ステップ1）事前学習1 火山噴火による災害を学び噴火への備えを考える	78
（ステップ2）事前学習2 火山噴火災害のリスクを理解して身を守る対応行動を考える	84
（ステップ3）体験学習（登山）登山を通じて火山噴火災害への対応力を深める	90
■登下校中の大地震を想定した避難訓練	92 ●地震 ●火災
■部活動時発生を想定した避難訓練	94 ●地震 ●津波
■犠牲者0を目指して一防災キャンプの実施	96 ●地震 ●津波
■火災を想定した避難訓練	98 ●火災
■生徒が企画・運営する合同防災訓練	100 ●地震
■地域と連携した避難訓練等の実施による防災学習の自校化	102 ●地震 ●津波
■避難訓練と小中連携の引き渡し訓練	104 ●地震 ●津波
■てんでんこレンジャーが園児や小学生に防災の啓発	106 ●全般
■高校生が開発した防災カードゲーム マイ・タイムライン わが家の防災行動計画	108 ●大雨 ●洪水 ●土砂
■日常に防災視点を加えよう	110 ●地震
■命にかかわる大問題一災害時のトイレと向き合おう	114 ●地震
■災害から生き抜く自分を描く「防災小説」	118 ●地震
■4コマ漫画教材一避難所運営を疑似体験する	122 ●地震
■生徒が主体的に取り組む避難所運営活動 一自らの命を守り、共に生きよう	128 ●地震 ●津波
■防災学習日を通じて、学校と地域が一体となって進める防災教育	130 ●地震 ●津波
■復興・防災マップの取組一過去から学ぼう 未来へつなげよう	132 ●地震 ●津波
■もしも明日災害が発生するとしたら、今日、何をしよう？	134 ●全般
■時系列で災害対応を考えよう	136 ●全般
■みんなでつくるWebハザードマップ	138 ●全般
■自然災害伝承碑から防災・減災を学ぶには	140 ●洪水

防災教育ワンポイント

■『地理院地図』を活用した防災ジュニアリーダー研修	152
■安全マップ作りで「小中連携」を推進	154
■中学・大学・地域との連携による「防災すごろく」で地域防災力を向上	156
■大学生から学んだ高校生が若い世代に伝える 「BOSAIユースアンバサダープログラム」	160
■ジェンダー視点を取り入れた避難所運営訓練	162
■女性に安心して使える「AEDシート」の開発と配布	164
■地域実態を反映したオリジナルHUGの開発・実施	166
■聴覚障害者が情報伝達に使える電子ボードの開発	168
■高校生と特別支援学校との防災交流 ーインクルーシブ社会の実現を目指してー	170
■カメラのリレーでつなぐ！ 記録と記憶の伝承ー町の定点観測ー	172
■中学生・高校生が地域と連携して主体的に取り組むボランティア	174
■雪害の現状と対策	176
■弾道ミサイルから身を守る行動	178
■弾道ミサイル発射を想定した避難訓練の取組事例	180
■高校生による津波防災出前授業	184
■歴史防災教訓学『方丈記』ー安元の大火から京都の火災を学ぶー	186
■観光ガイドボランティア中の避難訓練	188
■原子力災害に備えた防災マップ作り	190
■防災教育用語集	192

『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』 防災を含む安全に関する教育 （現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容）	202
防災教育チャレンジプラン	216

第5章

学校安全に関する資料・教材等参考資料（2024年3月現在）	235
-------------------------------	-----

事前、訓練、振り返りの3ステップで実施する防災教育プログラム【洪水】

ねらい ICT教材を使った3ステップの学習によって、大雨によって起こる洪水の特徴や被害・影響、洪水への備えを理解し、大雨時の洪水に対して適切な判断、対応能力を向上させる。

単元計画例

ステップ1 事前学習1 0.3時間	タイトル 洪水による災害を学び洪水への備えを考える 学習目標 1. 洪水の特徴及び洪水によって起こる被害・影響を理解する。 2. 洪水から身を守るための備えを理解する。 3. 洪水に関する避難情報と洪水から身を守るためのとるべき行動を理解する。 学習指導要領 ・ステップ1・学習指導要領(50分) 使用教材 ・新海津防災教育プログラム【洪水災害編】/新海津教育委員会・中越防災安全推進機構など
ステップ2 事前学習2 0.3時間	タイトル 洪水災害のリスクを理解して自分の身を守るための対応行動を考える 学習目標 1. 地図情報(YOU@RISK)を使って洪水による浸水範囲(被害が及ぶ範囲)を調べ理解する。 2. 地図情報(YOU@RISK)を使って洪水が発生したときの危険な場所や避難場所を調べ理解する。 3. 地図情報(YOU@RISK)を使って洪水が発生したときの避難経路や避難行動を調べ考える。 学習指導要領 ・ステップ2・学習指導要領(50分) 使用教材 ・デジタル教材「YOU@RISK洪水版」(防災科学技術研究所)
ステップ3 グループワーク 0.3時間	タイトル 洪水災害への対応力を高める 学習目標 1. グループで協力して地域の洪水リスクや適切な避難行動を考える。 2. グループで話し合ったことをまとめ発表する。 学習指導要領 ・ステップ3・学習指導要領(50分) 使用教材 ・デジタル教材「YOU@RISK洪水版」(防災科学技術研究所)

YOU@RISK洪水版

ハザードマップを使って洪水に備えよう

このプログラムでは、洪水に備えるための3つのステップを踏んで、自分の身の安全を守るための行動を考えよう。

1. あなたの家のハザードマップを調べてみよう
2. 洪水に備えるための避難場所を調べてみよう
3. どのように避難するかを考えてみよう

はじめて、調べたい地域の住所を入力してください。

住所を入力して検索する → 地図から自分の家を探す

参考サイト

- YOU@RISK(防災科学技術研究所) <https://youatrisk.bosai.go.jp>
- 先生のための防災教育ポータルサイト 防災教育リテラシーHUB 防災教育プログラム <https://bosai-kyoiku.jp/bosai>

YOU@RISK

国立研究開発法人 防災科学技術研究所



児童・生徒が地域の災害リスクに対して

主体的に行動する態度を育むことを目指し、地域で起こりうる災害の危険性を知り、災害に対して適切な行動を考えることができる学びの機会を提供するICTツールです。

インターネットに接続できるパソコンやタブレット端末を使用して、デジタル地図上で地域の災害リスクを調べることができ、いざというときの避難先や経路を検討することができます。

YOU@RISK beta

どんなリスクがあるか いのちを守るためにどうするか くらしを守るためにどうするか より深く知り行動するために

一人ひとりが災害を安全に乗り越えるために



万一災害が発生したときに適切な行動をとるためには、今後起こる可能性のある災害で、自分がどのような影響を受けるのかをあらかじめ知り、事前に備えておくことが大切です。

災害を安全に乗り越えるために、判断しなければならないこと

STEP1 どんなリスクがあるか	STEP2 いのちを守るためにどうするか	STEP3 くらしを守るためにどうするか	STEP4 より深く知り行動するために
私たちのまわりには様々な災害のリスクがあります。あなたの住んでいる場所、生活の拠点では、どのような災害に気をつけるべきか。その災害ではどのようなことが起きるかを考えてみましょう。 見てみる	災害時には、一人ひとり、それぞれの状況に応じて、いのちを守る行動を取る必要があります。いざ、災害が起きたら、起きたらどう行動するかを考えてみましょう。 見てみる	災害が発生した後のくらしやしごとを守るためには、普段から適切に備えておく必要があります。災害に関する学びを深め、いざという時に必要になるものを用意しましょう。 見てみる	災害に対して必要な対策は、一人ひとりの個性や暮らしに応じて変わってきます。個人や地域、地域で対策を検討するためのノウハウを調べましょう。 見てみる

ステップ1 指導案例

事前学習1 洪水による災害を学び洪水への備えを考える

- ねらい**
- 洪水の特徴及び洪水によって起きる被害・影響を理解する。
 - 洪水から身を守るための備えを理解する。
 - 洪水に関する避難情報と洪水から身を守るためのとるべき行動を理解する。

展開例

時	主な学習活動	指導上の留意点
導入	1. 災害の種類として「洪水」があることを知る。 ○大雨による洪水災害の怖さを理解する。 学習のポイント 洪水の特徴や危険性を学ぶ意義性を理解する。	○日本で起きる災害を何人かが発表する(地震、津波、豪雨、台風、洪水、竜巻、噴火、土石流、雪崩、大規模火災や爆発、人為災害等)。 ○大雨によって起きる被害について何人かが発表する(土砂崩れ、高浸水、内水はみ溢、地すべり、がけ崩れ、高浸水等)。 ○令和元年東日本台風(台風19号)による大雨災害など、過去に起きた洪水災害の写真を映写し見せながら、大雨によって起きる洪水災害をイメージできるようにする。 ※洪水に関する知識の共有を促す。 ※インターネットで公開されている、学習資料を入手して教材に活用する。 ※気象庁ホームページ「台風や集中豪雨から身を守るために」やリーフレット「大雨や台風」などを活用して説明する。
展開①	2. 洪水に関する基礎的な知識を理解する。 ○洪水の特徴を理解する。 学習のポイント 洪水の仕組みを理解する。 学習のポイント 洪水の種類や災害を起こす現象を理解する。 学習のポイント 洪水の対策や浸水想定を理解する。	○本時の学習を通じて達成すべきねらいを伝える。 ○洪水によって起きる被害について何人かが発表する。過去の災害の写真を映写し見せながら、全国各地の豪雨災害による被災の様子、インフラなどで過去に起きた洪水災害を事例として、インターネットで公開されている、使用可能な写真や動画を教材に活用する。 ○洪水災害に関する基礎知識(洪水の種類)を理解できるようにする。 ①外水氾濫と内水氾濫 ②大河川の氾濫と中小河川の氾濫 ③ゲリラ豪雨と暴風 ○地域の防災教育関係者や気象庁リーフレット「大雨や台風」などを活用して説明する。 ○洪水災害に関する基礎知識(浸水想定)を理解できるようにする。

時	主な学習活動	指導上の留意点
展開②	3. 洪水から身を守るための備えを理解する。 ○洪水から身を守るための避難行動や避難情報を理解する。 学習のポイント 洪水から避難するための適切な行動を理解する。 学習のポイント 洪水から避難するために必要な情報を理解する。	①標準洪水量 ②河川整備(防災施設) ③浸水想定区域図とハザードマップ ※ハザードマップは簡単な説明にする。 ※身近な地域内で洪水の危険性が異なることを理解できるようにする。 ④ワークシートにまとめる。 ※タブレット用の入力フォームを作成する。 ○地域で想定される洪水の危険性について何人かが発表する。 ○洪水に備えるための行動を理解できるようにする。 ※問：いか(想定)に対して何人かが発表する。 ■問：いかの問 一人一人が自宅にいるとき大雨が降ってきて、自治体から避難勧告が発表されました。どのような行動をとりますか。 ■想定される答え ・自宅に家族が帰ってくるのを待つ。 ・一人でもすぐに避難所に避難する。 ・テレビやインターネットなどで気象情報を入すする。 ※気象庁ホームページ「自分で行う災害への備え」などを活用して説明する。 ○避難情報(警戒レベル1～5)の意味や取るべき行動について理解できるようにする。 ○警戒レベル5 緊急安全確保(市町村が発令) ○警戒レベル4 避難指示(市町村が発令) ○警戒レベル3 高齢者等避難(市町村が発令) ○警戒レベル2 洪水注意報・大雨注意報等(気象庁が発令) ○警戒レベル1 早期注意報(気象庁が発令) ※警戒レベルと警戒レベル相当情報(気象情報)の違いを説明する。 ※内閣府ホームページ「警戒レベル4」で危険な場所から全員避難！5段階の「警戒レベル」を確認しよう(政府インターネットテレビ「避難情報」がよりわかりやすく！令和3年5月から「警戒レベル4」までに必ず避難！)などを活用して説明する。 ○洪水からの正しい避難方法を理解できるようにする。 ①応急避難 ②屋内安全確保 ③緊急安全確保 ※内閣府「避難情報に関するガイドライン(p13～18)」やチラシ「普段からどう行動するか決めておきましょう」などを活用して説明する。

38

時	主な学習活動	指導上の留意点
展開③	○地図情報を使って洪水から避難する地域や場所を理解する。 学習のポイント 「地図情報を使って洪水からの避難場所を調べることができることを理解する。」	○ハザードマップとは何かを理解できるようにする。 【ハザードマップ】 自然災害による被害を予測し、その被害範囲や避難経路・避難場所の情報を地図化したもの。洪水・土砂災害・火山の噴火など災害の種類ごとに作成。 【洪水ハザードマップ】 浸水想定区域図、洪水ハザードマップ等の伝達方法、避難場所、その他洪水時の円滑かつ迅速な避難の確保を図るための必要な事項などを記載したもの。 ※地域の防災教育関係者や国土交通省ホームページ「洪水浸水想定区域図、洪水ハザードマップ」などを活用して説明する。 ※実際に住んでいる地域の洪水ハザードマップ(自治体作成)を提示するとしイメージしやすい。 ○洪水からの避難場所と避難所の役割と標識を理解することができるようにする。 ※学校や公民館などが避難場所として指定されていることを説明する。 ○指定緊急避難場所 ○指定避難所 ※内閣府ホームページ「避難場所に関すること」(「指定避難場所」と「指定避難所」の違いについて)などを活用して説明する。 ○ワークシートにまとめる。 ※タブレット用の入力フォームを作成する。
まとめ	4. 学習内容をまとめる。	○洪水に関する知識と避難行動を理解し、事前の備えとして地域の洪水リスクや避難場所を調べ理解しておくことの重要性を確認する。 ○近くに河川がない地域であっても、河川の近くに行く場面があることを考え、その時に洪水から身を守るようにしておくことの重要性を確認する。 ○次時の学習内容を伝える。

- ねらいに対する評価**
- 洪水の特徴やその危険性を理解できたか。
 - 洪水の被害が及ぶ範囲を知るための方法を理解できたか。
 - 洪水に備えるための情報と避難行動について理解できたか。

使用教材・準備物、留意事項

準備物

- タブレット端末 ●電子黒板
- 所轄防災教育プログラム(「洪水災害編」基本6～7、教職員用副読本/新潟県教育委員会・中越防災安全推進機構)
- 気象庁ホームページ・リーフレット ●国土交通省ホームページ ●内閣府ホームページ など

留意事項

- 本学習は、新潟県教育委員会等が作成した教材を使った学習ことを前提にしている。
- 地元気象台や大学等の専門家と連携をすることによって、より効果的な学習を行うことができる。
- 災害経験により正しい記憶があったり、つらい思いをしたり、身内を亡くしている生徒がいる場合はその生徒の状況に配慮して授業を行うようにする。
- 近くに河川がない地域であっても、河川の近くに行く機会があることを考え、その時に洪水から命を守るように真剣に取り組ませる。
- 実際の避難場所がどのような場所にあるのかを、地域の洪水ハザードマップや地図などで確認することも効果的である。(ステップ2「YOU are RISK」子ども版・洪水を活用した学習に続く)
- 「指導上の留意点」の表現を変更することで高校生にも応用可。

参考資料

- 台風や集中豪雨から身を守るために(気象庁ホームページ)
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/ame_chuu/ame_chuu_p1.html
- 「大雨や台風」(気象庁リーフレット)
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/oametyphoon/index.html>
- 新潟県防災教育プログラム(新潟県教育委員会・公益社団法人中越防災安全推進機構)
<http://furusato-bousai.net/>
- 洪水浸水想定区域図・洪水ハザードマップ(国土交通省ホームページ)
<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/tisiki/syozaiti/>
- 内閣府ホームページ「避難場所に関すること」(「指定避難場所」と「指定避難所」の違いについて)
https://www.bousai.go.jp/taisaku/pdf/hinanjo_02.pdf
- 気象庁ホームページ「自分で行う災害への備え」
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/ame_chuu/ame_chuu_p10.html
- 「警戒レベル4」で危険な場所から全員避難！5段階の「警戒レベル」を確認しよう(内閣府ホームページ)
<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201906/2.html>
- 避難情報がよりわかりやすく！令和3年5月から「警戒レベル4」までに必ず避難！(内閣府ホームページ)
<https://www.gov-online.go.jp/prg/prg22848.html>
- 避難情報に関するガイドラインの改定(令和3年5月)(内閣府防災担当)
https://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjohou/r3_hinanjohou_guideline/
- 新たな避難情報に関するポスター・チラシ(内閣府防災担当)
https://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjohou/r3_hinanjohou_guideline/pdf/poster.pdf
- 内閣府
https://www.gov-online.go.jp/tokusyuu/cu_bosai/oame_taiifu.html
- 洪水防災教育プログラム「YOU are RISK」(子ども版)
<https://bosai-kyoiku.jp/bousai/189/>

39

ステップ2 指導事例

事前学習2 洪水災害のリスクを理解して自分の身を守るための対応行動を考える

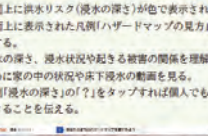
- ねらい**
- ・地図情報を使って洪水による浸水範囲(被害が及ぶ範囲)を調べ理解する。
 - ・地図情報を使って洪水が発生したときの危険な場所や避難場所を調べ理解する。
 - ・地図情報を使って洪水が発生したときの避難経路や避難行動を考える。

概観例

時	主な学習活動	指導上の留意点
導入	1. 学習のねらいを理解する ○前時の学習内容を振り返る。 ○本時のねらいを知る。 学習のポイント Web-GISを理解する。	○前時の学習を振り返る。 ※洪水ハザードマップの役割を振り返る。 ※指定緊急避難場所、指定避難所の役割を確認する。 ○本時の学習を通じて達成すべきねらいを伝える。 ※デジタル教材「YOU@RISK子ども版・洪水」とは何かを説明する。 【YOU@RISK】 国の研究機関「防災科学技術研究所(つくば市)」が開発したWeb上で動作するWeb-GISのアプリケーション。 ※インターネットに接続できるタブレット端末を使用して、地図上に河川が氾濫した時の浸水範囲や避難場所、選択した避難場所までの避難経路を調べて表示できる機能がある。
展開	2. 地図情報を使って洪水による浸水範囲を調べ、理解する。 ○YOU@RISK子ども版・洪水の操作を理解する。 学習のポイント YOU@RISK子ども版・洪水の基本操作を理解する。	※教員のタブレット画面を大型モニター等に表示させる。 ○生徒のタブレットでYOU@RISK子ども版・洪水を活用する。※実際に応じて、複数での操作も可能。 ハザードマップを使って浸水に備えよう 防災科学技術研究所ホームページ(期間限定) https://nied-weblabo.bosai.go.jp/you-risk_20230330/

時	主な学習活動	指導上の留意点
展開	○地図情報を使って洪水リスクを調べ理解する。 学習のポイント 洪水から避難するために必要な情報を理解する。 ○「現在地から始める」をタップする。 ○地図を拡大縮小させて、自分のいる場所(学校)を探してタップする。	○メニュー画面「ハザードマップを使って洪水に備えよう」に従ってYOU@RISK子ども版・洪水を操作しながら学習することを理解できるようにする。 ※学習の手順1～3について説明する。 ○メニュー画面の「あなたのまわりのハザードマップを見てみよう」に従ってYOU@RISK子ども版・洪水を個人で操作する。 ○学習をはじめ。 ○地図上で自分のいる場所(学校)を正しく理解できるようにする。 ○場所を指定しない場合、「場所検索」に自分のいる場所(学校名)を入力して検索する。 ※地図上に「@印(青色)」が表示されたことを教師用画面や生徒用画面上で確認する。 ※画面をタップして「@印(青色)」の位置を変更することができる。  (灰色地図) ※背景地図を変更して地形の特性を確認する。  (空中写真)  (衛星写真)

40

時	主な学習活動	指導上の留意点
展開	○自分のいる場所(学校)を確定したら、「次へ進む」をタップする。 ○「ハザードマップを見る」をタップする。 ○YOU@RISK子ども版・洪水のハザードマップの見たを理解する。	○「あなたのまわりのハザードマップを見てみよう」の学習内容とYOU@RISK子ども版・洪水の操作方法を理解できるようにする。 ※学習内容とタブレットの操作方法を説明する。   ※地図上に洪水リスク(浸水の深さ)が色で表示される。 ※画面上に表示された凡例(ハザードマップの見方)を説明する。 ○浸水の深さ、浸水状況や起る被害の関係を理解するために家の中の状況や床下浸水の動画を見る。 ※凡例「浸水の深さ」の「？」をタップすれば個人でも確認できることを伝える。 

時	主な学習活動	指導上の留意点
展開	○凡例「家屋倒壊等氾濫想定区域」の「？」をタップする。 ○YOU@RISK子ども版・洪水を操作する。 ○浸水の深さによって、垂直避難が可能な避難場所かを確認する。 ○調べてわかったことを何人かが発表する。 ○地図情報を使って浸水範囲を調べ、理解する。	○河川浸食と氾濫の特性と起る被害を理解できるようにする。  ○自分のいる場所(学校)の洪水の危険性や地理的な特性を調べて理解できるようにする。 ※自分のいる場所(学校)の「浸水の深さ」を確認する。  ○地域の洪水による浸水範囲を調べて理解できるようにする。 ※ピンを中心に地図を拡大することによって被害が及ぶ範囲を把握範囲に調べる。 ※自分のいる場所(学校)の周辺地域の「浸水の深さ」を確認する。 

41

時	主な学習活動	指導上の留意点
展開①	○地域の地理的な特性について調べて理解する。 ○調べてわかったことを何人かが発表する。	※背景地図を変更することで周辺地域の地形の特性を確認できるようにする。 
展開②	3. 地図情報を使って洪水が発生した時の避難場所や避難経路を理解する。 ○発生したときの避難場所を理解する。 学習のポイント ハザードマップを確認して洪水から避難する安全な場所を調べる。 ○「避難場所を選ぶ」をタップする。 ○調べたい避難場所(マーク)をタップする。	①「洪水から避難する場所を調べてみよう」の学習内容とYOU@RISK子ども版・洪水の操作方法を伝える。 ※学習内容とタブレットの操作方法を説明する。   ※地図上に避難場所(マーク)が表示される。 ②洪水から避難する場所の洪水の危険性や地理的な特性を調べて理解できるようにする。

時	主な学習活動	指導上の留意点
展開③	○避難場所(マーク)をタップする。 ○選択した理由や調べてわかったことを何人かが発表する。 ○洪水が発生した時の避難経路を理解する。 学習のポイント 洪水から避難するための適切な避難経路を調べる。 ○「避難経路を考える」をタップする。	③調べたい避難場所の情報(施設名称、住所)を確認する。 ④自分のいる場所(学校)から避難場所までの直線距離を確認する。 ⑤避難場所の「浸水の深さ」を確認する。 ※背景地図を変更して地形の特性を確認する。 ⑥浸水の深さによって、適直避難が可能な避難場所が考えられるようにする。  ⑦洪水から避難する場所(1地点)を選択する。 ⑧⑦のように避難するかを調べてみようの学習内容とYOU@RISK子ども版・洪水の操作方法を伝える。 ※学習内容とタブレットの操作方法を説明する。  ⑨洪水から避難する経路の危険性を調べて理解できるようにする。 

42

時	主な学習活動	指導上の留意点
展開④	○より安全な避難経路を考える。 ○避難経路上で危険な場所をタップし、メニュー画面の「ここを避ける場所にする」をタップする。 ○避難経路上で安全な場所をタップし、メニュー画面の「ここを通る経路にする」をタップする。 ○選択した理由や調べてわかったことを何人かが発表する。	※地図上に表示された避難経路(黒線)を確認する。 ※画面右上に表示された避難経路の情報(避難方法(徒歩、車)、距離、時間(高齢者の場合の時間))を確認する。 ⑩表示された情報をもとに、自動で選択された避難経路の安全性を考えられるようにする。 ⑪避難経路上で危険な場所を調べ、安全な避難経路を考えられるようにする。 ※地形、小河川、アンダーパスなどの大雨時に危険な場所を調べて確認する。 ※地図上で選択した場所に「×印(赤色)」が表示され、避難経路が再表示される。 ※避難経路上で通れない場所が複数ある場合は同じ操作を繰り返す。 ※複数選択すると、「経路が見つかりません。場所を変えてやり直してください。」と表示されることがあるので、「2にもどる」をタップして前の作業に戻る。 ⑫安全な避難経路を自分で考えられるようにする。 ⑬危険な場所を回避して避難することの重要性を理解できるようにする。 ⑭地域によって、避難場所まで時間がゆったり、避難経路上に危険箇所が複数ある場合もあり、事前学習で学んだ避難方法を思い出し、近隣の建物への避難や垂直避難もあることを理解できるようにする。 
展開⑤	4. 地図情報の理解を深める。 学習のポイント YOU@RISK子ども版・洪水の操作方法を習熟する。	※展開1「2. 地図情報を使って洪水による浸水範囲を調べ理解する。」からの学習の流れで進める。

時	主な学習活動	指導上の留意点
展開⑤	5. 学習内容をまとめる。	※避難場所は前回より安全な場所がないか探そうように促す。 ※YOU@RISK子ども版・洪水の操作になれた生徒は、「自分のいる場所(学校)」を「自宅」にして、避難場所や避難経路を考えられるようにする。 ※ICTツール(YOU@RISK子ども版・洪水)を利用することによって、自分の学校や地域の洪水リスクを知ることができ、洪水に備えるための避難計画を事前に考えておくことができる。 ※洪水が発生した場合の避難場所や避難ルートを自分で考えておくことの重要性を理解できるようにする。

ねらいに対する評価

- ・地図情報を使って地域の洪水リスクを調べることができたか。
- ・地図情報を使って洪水が発生したときの危険な場所や避難場所を調べることができたか。
- ・地図情報を使って洪水が発生したときのより安全な避難経路を調べることができたか。

使用教材・準備物、留意事項

準備物

- タブレット端末 ●電子黒板 ●デジタル教材(YOU@RISK子ども版・洪水)
- 洪水ハザードマップ(自治体) など

留意事項

- 本指導案は、洪水による被害範囲の理解のしやすさと対応行動の仕方を中心に構成している。
- 「理科」「社会科」と関連付けて指導すると、より学習効果が得られる。

参考資料

- 洪水発生と伝播のしくみ(気象庁ホームページ)
<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami/generation.html>
- 洪水防災啓発動画「洪水に備える」(気象庁作成)
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd_sonaeru/index.html
- 洪水から身を守るために(気象庁ホームページ)
https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/index.html#tsunamiknow
- 洪水から身を守るために(気象庁リーフレット)
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami201501/index.html>
- 洪水警報・注意報、洪水情報、洪水予報について(気象庁ホームページ)
<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/joho/tsunamiinfo.html>
- 洪水防災教育プログラム[YOU@RISK_洪水・子ども版]
<https://bosai-kyoku.jp/bousai/189/>

43

ステップ3 指導事例

グループワーク 洪水災害への対応力を高める

- ねらい**
- ・グループで協力して地域の洪水リスクや適切な避難行動を考える。
 - ・グループで話し合ったことをまとめ発表する。

展開例

時	主な学習活動	指導上の留意点
導入	1. 学習のねらいを理解する。 ○前時の学習内容を振り返る。 ○本時のねらいを知る。 ○グループで議論し、意見をまとめて発表する。	◎ステップ2で行ったYOU@RISK子ども版・洪水を使った学習内容を振り返る。 ◎本時の学習を促して達成すべきねらいを伝える。 ◎デジタル教材「YOU@RISK子ども版・洪水」を使いこなし、洪水による浸水範囲や避難場所、避難経路の危険性を調べ理解できるようにする。 ◎設定した課題に対して個人で調べ、理解できるようにする。
展開①	2. 地図情報を使って指定した場所や周辺地域の洪水リスクと地理的特徴を調べ理解する。 ○地図情報を使って洪水リスクを理解する。 ○タブレットでYOU@RISK子ども版・洪水を起動する。 ○指定した場所や周辺地域の洪水リスクを調べる。 ○指定した場所や周辺の地理的特徴を調べる。 ○調べたことをグループ内で発表する。グループのリーダーは、意見をまとめる。 ○地図情報を使って洪水が発生した時の避難場所を理解する。 ○洪水から避難する場所を調べる。	◎教師のタブレット画面をモニター等に表示させる。 ◎ステップ2, 学習指導案「2. 地図情報を使って津波による浸水範囲を調べ理解する」以降の学習の流れを進める。 ◎個人のタブレットでYOU@RISK子ども版・洪水を操作して調べる。 ◎グループで考えるテーマを示す。 ※クラスを4～5人のグループに分ける。 ※以下の想定を満たす建物や場所を手の調べる。 ・洪水の浸水範囲内にある建物や場所からの避難行動 ・洪水の浸水範囲に近い建物や場所からの避難行動 ・垂直避難を想定した避難行動 ・スタート地点は統一し、避難する時間を変える（早朝、日中、夜間）など ◎洪水による浸水範囲を確認するように促す。 ◎YOU@RISK子ども版・洪水を操作し、土地の高低差など、地理的な特徴を読み解く。 ◎YOU@RISK子ども版・洪水を操作し、避難する場所を考えられるようにする。 ◎選択した場所の浸水率を確認するように促す。

時	主な学習活動	指導上の留意点
展開②	3. グループの意見を発表する。 ○グループで、テーマに関する発表資料を作成する。 ○グループの発表を行う。 ○発表後に、ほかのグループからの質問や意見を受ける。	◎YOU@RISK子ども版・洪水を操作し、地図を使って土地の高低差を確認するように促し、地理的な特徴を読み解く。 ◎避難場所の収容人数や設備を確認するように促す。 ◎垂直避難について確認するように促す。 ◎洪水から避難する場所（1地点）を選択する。 ◎グループで議論して、洪水から避難する場所を決める。 ◎避難場所への避難経路を調べる。 ◎YOU@RISK子ども版・洪水を操作し、避難経路の危険性を確認しながら、安全な経路を選択するように促す。 ◎浸水範囲、避難場所の位置などを確認し、最適な避難所と避難経路を検討できるように促す。 ◎洪水から避難する経路を選択できるように促す。 ◎グループで議論して、洪水から避難する経路を決める。
まとめ	4. 学習内容をまとめる。 ○学習のねらいと内容を振り返る。 ○学習1～3の学習を振り返る。	◎YOU@RISK子ども版・洪水のスクリーンショットを活用する。 ◎グループの発表時間（3分）を伝える。 ◎グループの発表や質疑応答の内容をまとめる（時間がある場合）。 ◎議題1からの作業を行う。 ◎テーマは、グループで話し合ってから決めるようにする。 ※いくつかのグループが発表できるようにする。 ◎グループの発表や質疑応答の内容をまとめる。

- ねらいに対する評価**
- ・地図情報を使って洪水リスクや避難行動を考え、他者に伝えることができたか。
 - ・グループで協力して、地域の洪水リスクや避難行動について発表することができたか。
 - ・自分や他者の命を守るための知識や意識を高めることができたか。

使用教材・準備物、留意事項

- 準備物**
- タブレット端末 ●電子白板 ●デジタル教材「YOU@RISK子ども版・洪水」 など
- 留意事項**
- 本指導案は、洪水による被害範囲の理解のしやすさと対応行動の仕方を中心に構成している。
- 参考資料**
- 洪水防災教育プログラム「YOU@RISK 洪水・子ども版」
https://bosai-kyoiku.jp/bosai/189/

44

対象 中学 高校 災害分類 水害・洪水・土害 防災基礎力 知る 備える 行動する

高校生が開発した防災カードゲーム マイ・タイムライン ーわが家の防災行動計画ー

- ねらい**
- ・マイ・タイムラインゲームを通して、自分の住む町に起こる様々な災害の危険性を知り、災害発生時の適切な行動を身に付ける。
 - ・マイ・タイムラインの重要性を理解し、災害の備えを知る。

展開例

時	主な学習活動	指導上の留意点
導入	1. マイ・タイムラインについて振り返る。 ○（マイ・タイムラインとは） 災害時、どのような行動をするのか。 事前に決めておく防災行動計画のこと	◎以下の内容について振り返ること。本時の学習内容を理解できるようにする。 ・ハザードマップを確認して分かったこと ・避難先・避難ルートを確認して分かったこと ・持ち出す品を確認し、避難時に必要なものを知って分かったこと
展開	2. 高校生が開発したマイ・タイムラインゲームをする。 ○4～5人1組のグループを作り、カードゲーム「Save My Life」を行う。 ○災害レベルが上がる想定で1～4ターンを行う。 【1ターン】災害レベル1～2 ①②コースのいずれかを通過する ③その通過レベルの状況を確認する ④行動カードを5枚中3枚選択する ⑤クイズに答える 【2ターン】災害レベル3 ①～④を行う 【3ターン】災害レベル4 ①～④を行う 【4ターン】災害レベル5 ①～④を行う	マイ・タイムラインカードゲームのルール ①場面を見る ②その通過レベルの状況を確認する ③行動カードを5枚中3枚選択（3分間） ④クイズに回答する ⑤全問で4ターンあり ◎4ターンまであり、災害レベルがターンごとに上がることを説明する。 ◎行動カードがあり、災害レベルに準じてカードを選択するよう説明する。 ◎行動カードは、マイ・タイムラインシートに置くよう説明する。 ◎ターンごとにクイズが出題されることを説明する。
まとめ	3. 本時の学習の振り返りをする。 ○いばにのったカードとその理由、クイズを通して学んだことをワークシートに記入する。	◎今日の授業で得た気づき、家でも避難について話し合うことを伝える。

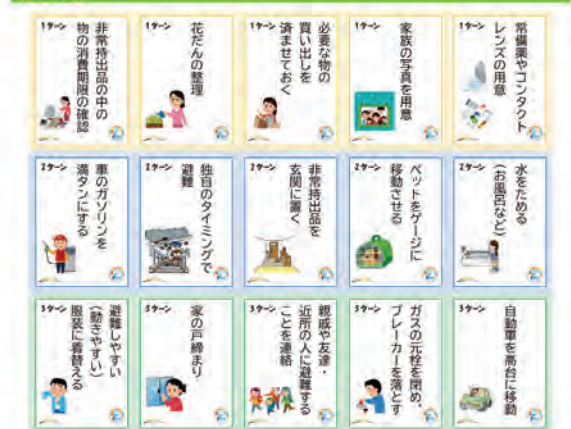
- ねらいに対する評価**
- 災害時において事前準備がいかに重要かを学び、自分の住む町の課題に気付けたか。

活動時の様子



マイ・タイムラインシートに記入した行動カードを渡している。
クイズはシンキングタイムが3分間、発表・質疑応答はそれぞれ1分間ずつで行う。
行動カードの選択やクイズを通して楽しみながら防災を学ぶ。

行動カード例



使用教材・準備物、留意事項

- 使用する教材・準備物**
- カードゲームマニュアル ●マイ・タイムラインカードゲームシート ●マイ・タイムラインカードゲームプレゼン ●マイ・タイムラインカード記入用 ●行動カード ※本事例に準じたカードゲームは実践校で作成したものを
- 参考資料**
- 国土交通省 Webサイト「マイ・タイムライン」

2025年度、
新潟県・岩手県の中学校における
実証実験を実施中

新潟県防災教育プログラムとタブレットを使った防災教育を体験してみませんか？
実践協力校募集！「洪水」をテーマにした防災学習プログラム
新潟地方気象台 × 新潟大学 が全面サポート！

○実施するメリット

- ✓ 文部科学省「実践的な防災教育の手引き（中高編）」※1に掲載された学習指導案を活用！
 - ▶ 新潟県防災教育プログラム（洪水災害編）の一部を教材に採用、先生方が授業しやすい内容で構成。
- ✓ ICTを活用した最新の防災学習！
 - ▶ 防災科学技術研究所が開発したICT教材『YOU@RISK 子ども版』※2を活用した、地理情報を使ったシミュレーションを通じて洪水災害のリスクを主体的に学ぶ。
- ✓ 新潟大学と気象台が全面支援！授業準備をサポート！
 - ▶ ICT教材・学習指導案の提供、授業準備に関する先生へのアドバイス、授業実践時の補助に対応。



※1：現在文部科学省が校正作業中のため、後日ホームページ「学校安全ポータル」で公開されます。

※2：防災科学技術研究所のホームページ又は「YOU@RISK」で検索してください。

○実践概要

対象：中学生

期間：令和7年度（年内に実施）

実践：授業50分×3回（社会・理科・総合的な学習の時間など）

1時限：洪水の知識を学ぶ（クラス又は学年）、2時限：タブレット学習（個人）、3時限：タブレット学習（グループ）

※学習前後でアンケート（10問程度）による学習効果を測定します

機器：タブレット端末、学校のインターネット環境

○協力校の募集

・新潟市内の協力校を募集いたします。「興味がある」「話を聞いてみたい」のみでも結構ですので、まずはお気軽にお問合せください。

○お問い合わせ

新潟地方気象台 永田俊光 nagata@met.kishou.go.jp 電話：025-281-3872



46

防災教育に関する事例を参考にできるWEBサイト

防災教育チャレンジプラン



防災教育チャレンジプランとは

いつやってくるかわからない災害に備え大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害に遭ったときすぐに立ち直る力を一人一人が身に付けるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのプランです。

▶防災教育チャレンジプラン

<http://www.bosai-study.net/top.html>



防災教育への意欲をもつ全国各地の団体・学校・個人等に対し、より充実した防災教育のプランを募集し、「防災教育チャレンジプラン」として選出したうえで、その実践への支援を行います。

防災教育チャレンジプランを1年間実践した後、実践例や支援した取り組みの内容をワークショップ

を通じて広く公開・共有するとともに、優れた実践例を表彰することによって、全国の防災教育に取り組む団体・学校・個人やそのプランに光をあて、各地域で自律的に防災教育に取り組むことのできる環境づくりを目指しています。



防災教育チャレンジプランのWEBサイトで防災教育活動を探すには

① 3つの観点から探す

チャレンジプラン実践団体の最終報告をもとに、「防災教育で使える素材を探す!」、「イベントとしで実施したい!」、「総合学習や選択授業で実施したい!」、の3つの観点から検索することができます。



② 事例集から検索する

「防災教育事例集検索」では、対象(校種など)や実習種、活動目的など項目を指定して検索することができます。



「防災教育って何をしたらいいのかな?」
そんなときに役立つ情報を検索できます。

新・防災教育 チャレンジプラン



防災教育チャレンジプラン実行委員会

防災教育チャレンジプランとは

- 近年、災害が激甚化・頻発化する中、21世紀の災害に立ち向かうであろう、子供たちを中心とした家庭や地域の防災に関わる能力の向上を図ることにより社会全体の防災力を向上させることを目的として活動しています。
- 全国の地域や学校等における防災教育を推進するためのプランを募集し、実践への支援を行っています。
- 一年間の実践の後、その実践例や支援した取り組みの内容をワークショップを通じて広く公開・共有するとともに、優れた実践の表彰を行うことで、全国の防災教育に取り組む団体・学校・個人やそのプランに光をあて、各地域で自律的に防災教育に取り組むことのできる環境づくりを目指します。



防災教育チャレンジプラン実行委員会

委員長	木村 晴哉	兵庫県立大学 環境人間学部・大学院環境人間学研究所 教授
委員	梅島 清恵	出羽「ふれあいルーム」代表
委員	池田 真幸	国立研究開発法人防災科学技術研究所 災害過程研究部門 契約研究員
委員	井上 浩一	防災ネットワークプラン 代表
委員	大友 康司	関東学院大学人間共生学部 准教授
委員	堀江 一	鹿児島大学工学部コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 教授
委員	国崎 信江	危機管理教育研究所 代表
委員	東田 輝之	認定特定非営利活動法人レスキューズネットワーク 代表理事
委員	小松原 弘	セコム株式会社IS研究所 研究戦略部 主務
委員	酒井 慎一	東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 教授
委員	佐藤 公治	筑波大学立大谷中学校 教諭
委員	佐藤 健	東北大学災害科学国際研究所 防災実践推進部門防災教育実践学分野 教授
委員	澤野 次郎	公益財団法人日本法学会 理事長
委員	堀江 清二	防災学習アドバイザー・コアラレーター
委員	中川 和之	時事通信社 寄稿編集委員
委員	中澤 和子	株式会社新建築所 取締役専務
委員	永田 俊光	新潟地方気象台 リスクコミュニケーション推進官
委員	松本 伸江	神戸学院大学 現代社会学部社会防災学科 教授
委員	堀江 由美子	関西国際大学 保健学部看護学科 准教授
委員	本田 泰平	特定非営利活動法人日本シオパークネットワーク事務局 事務局員
委員	南島 正康	東京都立阿部高等学校附属中学校 元・主幹教諭
委員	村山 誠	千葉県立倉取特別支援学校 校長
委員	磯部 貴大	国土交通省水管理・国土保全局防災課 防災企画官
委員	木下 史子	文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課安全推進室 安全教育調査官
委員	渡野 敬行	徳島県消防庁民保課 防災部防災地域防災室長
委員	内山 邦治	内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官(普及・防災教育・NPOボランティア連携担当)
委員	大森 祥重	文部科学省 地震火山防災実践課 防災科学技術調査官

2025年6月1日現在 最新版
【実行委員会とはボランティアとして無報酬で活動しています】

48

防災教育チャレンジプランの活動

**2004年から20年以上
防災教育支援を継続**

防災教育チャレンジプランは、新潟中越地震が発生した2004年にスタートし、毎年10〜30の実践団体の活動を支援しています。

**多様な災害を対象とした
防災教育を支援**

これまでに延べ366団体による、地震や水害、火山噴火など様々な災害を対象とした防災教育を支援しています。

**全国の防災教育実践団体
による活動や交流を支援**

防災推進国民大会との連携や、オンラインを活用した報告会・交流会等を通じ、全国の防災教育実践団体の活動や交流を支援しています。

具体的な支援内容

1. 活動支援金の提供 …… 最大30万円の活動支援金を提供します。
2. 報告会・交流会への招待 …… 3回のイベントを通じた実践団体、アドバイザー等との交流の機会を提供
3. 活動アドバイスの提供 …… 実践団体のニーズや事情を踏まえ、アドバイザーを派遣し、関連情報を提供

※詳細はホームページ等から「新・防災教育チャレンジプラン募集要項」をご覧ください

活動のようす



活動表彰

活動プロセス及び成果に対して審査を行い、優秀な実践活動に対して、防災教育大賞、防災教育優秀賞、防災教育特別賞を決定し、表彰状と盾を授与いたします。



賛助企業



賛助企業の募集

防災教育チャレンジプラン（以下、「チャレンジプラン」）では、社会全体の防災力を向上させることを目的として、2004年より全国の地域や学校等の防災教育に取り組む団体への支援を行ってまいりました。しかしながら、限られた資金で取り組みを実施するなかで、実践団体のみなさまに十分な支援金が行き渡らないために活動に制限が生じるケースもあることから、資金拡充のためご支援いただける賛助企業を募集いたします。

より充実した実践活動を継続して支援していくため、チャレンジプランの取り組みにご賛同いただける企業等のみなさまからの賛助のお申し出をお待ちしております。

- 募集期間 …… 2025年3月より年間を通して承ります。
- 賛助金額 …… 100,500円 からの受付とさせていただきます。
- 賛助金の使途 …… 原則として、チャレンジプラン実践団体への支援金及び事務局運営資金として使用させていただきます。

■ 賛助企業事務受付 ■

チャレンジプランは内閣府、防災教育チャレンジプラン実行委員会、実行委員会支援組織の公益財団法人日本法学会の3者により運営しており、実践団体への支援（活動資金調整など）は公益財団法人日本法学会により行っています。本件に係るご相談は、いずれの3者でも承っておりますが、支援金の入金に係る調整につきましては日本法学会事務局よりご連絡させていただきます。

<賛助企業に関するお問い合わせ先>
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-15-2 九段パークビル3階
公益財団法人 日本法学会 担当 竜崎 仁藤
TEL: 03-6822-9901 Fax: 03-3556-8217
E-mail: jlmukyoku@hoseigakkai.jp

防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局

（一般社団法人防災教育普及協会 内）
https://bosai-japan.jp/challenge-plan/
TEL: 03-6822-9903
E-mail: cpinfo2005@bosai-study.net
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-15-2 九段パークビル3F
公益財団法人河川財団による
河川基金の助成を受けています。



49

- ・避難に関する備えは、「ハザードマップ」を利用して自宅や地域の危険性を知ることによって「災害が迫っている感覚」を高めながら避難場所や避難経路を考える。また「地域交流をはかる」ことで、災害対応行動へのコミットメントや利他的動機づけによって避難への備え行動が強化されることが考えられる。
- ・災害時の避難行動は、「ハザードマップの認識」だけでは促進されず「具体的な被害までイメージができること」さらに「感情的な高まり」が必要である。
- ・防災教育実践は、「知る→備える→行動する」ことで、体系的な教育プログラムとして実践することができる。またマネジメントでは、3つのステップを踏んで実践を形式知化していくことが重要である。
- ・災害に「わがこと意識」を持つための防災訓練プログラムによって、地域における災害時リスクを理解し、災害時に自分自身が取るべき対応を理解した。
- ・文部科学省（2024）『指導参考資料集 実践的な防災教育の手引き 中学校・高等学校編』にまとめたように、水害の現象理解をしながら、ハザードマップを使って自宅・地域がどのような被害にあうのかを理解し、その上で、具体的な対応行動を考えるという段階的な教育プログラムを提案した。

ご支援によって、様々な成果を挙げることができました。
心より感謝申し上げます。

研究 1

木村玲欧（2024）, 避難に関する備えを促進させるための防災教育のあり方, 日本科学教育学会 年会論文集48, pp.257-260.

研究 2

木村玲欧・大友章司・永田俊光, 風水害の警戒レベルがリスク認知・避難行動に与える影響, 土木学会論文集（投稿予定）
大友章司・木村玲欧（2024）災害時の警告の真偽確認に関連するリスク・グラフィック要因, 日本心理学会第88回大会発表
論文集（1p.）

研究 3

KIMURA, R. and IKEDA, M.(2024) Features and Issues of Disaster Management Education Practices in Schools and Communities in Japan: Based on an Analysis of Activities of Organizations Participating in the “Disaster Management Education Challenge Plan” of the Cabinet Office, Journal of Disaster Research, Vol.19, No.1, pp.19-29.

研究 4

KIMURA, R. and AIKAWA, K.(2024) Proposal for a Disaster Management Drill Program for High School Students Who Have Never Experienced a Disaster to Foster a Sense of “Awareness that Disaster Affects Everyone”, Journal of Disaster Research, Vol.19, No.1, pp.124-138.

今後も風水害による適切な避難行動と命を守るために、研究を続けていきたいと思っています。引き続き、ご指導・ご鞭撻を賜りたく
よろしくお願い申し上げます。

